# H3C iMC プラットフォーム トラブルシューティングガイド

ソフトウェアバージョン:IMC PLAT 7.3(E0701)

Copyright©2018New H3C Technologies Co., Ltd. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、New H3C Technologies Co., Ltd.の事前の書面による同意なしには、いかなる形式または手段によっ ても複製または変更することはできません。 New H3C Technologies Co., Ltd.の商標を除き、本書に記載されている商標は、それぞれの所有者の所有物です。

本ドキュメントの情報は、予告なく変更されることがあります。

# 内容

はじめに	1
一般的なガイドライン	
テクニカルサポートへの連絡	
iMCプラットフォー 人のトラブルシューティング	2
$\gamma = 1$	ຸຼຸຼຸ 
このでは、「「「「「「「」」」」「「「」」」」「「「」」」」「「「」」」」「「」」」」「「」」」」	2۲
近い	2
ソリューション	2 2
症状	2
がしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	2
デバイスに到達できませんでした	
症状	
ソリューション	3
jserverプロセスの状態は次のとおりです。プロセスエラーのデータの監視	7
, 症状	7
ソリューション	8
IMCのアップグレードに失敗しました。SQL Serverデータベースが動的ポートを使用しているからです。	11
症状	11
ソリューション	12
一部のデバイスをiMCに追加できませんでした。	13
症状	13
ソリューション	13
自動構成ポーリングの実行後にシステムグループ属性の変更が反映されない	14
症状	14
SQL Server2005テーダヘースサーハーのホスト名か変更された後、IMCをVバニアッノクレートでさません	ッでし <i>て</i> こ。15
延び	
ノリューション iMCは、思たるデバノフに対して同一デバノフのマラールたけ成します	10 16
IMOは、異なるアバイスに対して同一アバイスのアプームを主成しより。	10
近ひ	10 16
ジリューション iMCは一部のサービスファンクションの問合せ其進を自動的に記録します	10
「WOR 中のケービスケーションの向日と率中を自動的に記録のより。	
ンリューション	
データエクスポートファイルが大きすぎます	
症状	
ソリューション	
管理者には、iMCリソースに対する読取り権限のみがあります。	20
症状	20
ソリューション	20
指定されたメモリーのアラームをフィルタできませんでした。	21
症状	21
ソリューション	21
アクセスデバイス上のメモリーのシャットダウンに失敗しました。	22
	22
iMCコンボーネントの配布に失敗した後、データベースに接続できない	24
症状	
ノアイアリオールか有効な场合、IMU LIVEUpdateは使用できません。	27
進入	
ノ·リューンヨノ	27

Jserver.exeを開始できない	27
症状	27
ソリューション	27
iMC NMEのトラブルシューティング	
iMCアラームショートメッセージ転送障害	29
症状	
ソリューション	29
アラーム分析時にIMCがルートアラームを特定できない	
症状	
ソリューション	
iMCが予期されたアラームを受信しない	
症状	
ソリューション	
iMCが予想されるメモリーのアップ/ダウンアラームを受信しない	
症状	35
ソリューション	
iMC ICCのトラブルシューティング	.37
=	
クパイスフノドウェアを導入、ウスドア、インホードするためのアハイスを追加できない	
進1人	،ری حد
フリューションアリューション	، د
アパイスフノドウェアの転送にTFTFを使用できませんでした。	
////シ->・	oد
ノリューション	
ナハイス構成の手動ハックアックに大敗しました	
進入	
ソリューンヨノ FTDた体田レイデバノス構成たバックマップでキナルノマレナ。	
FIFを使用してナハイス構成をハックアップできませんでした	
進仏	
フリューション ゴバノフリコト ウェマの 転送に ETD た 体田 できませ ノ でした	
ナハイスノントウエアの転送にFTFを使用できませんでした。	
進入	
ノリューション	
SFTPを使用してナバイスフノドウェアを転送できませんでした	43 42
////シ->・	43
フリューンヨノ CODな体田レイ特異様式ないックマップオスことに明オスエニーメッタージ	
SUFを使用して表直悟成をハウクナックすることに関するエリーメッセーノ	
進入	
IMC NetAssetのトラノルシューティング	45
iMCはネットワーク内のスタックデバイスを識別できませんでした。	45
症状	45
ソリューション	45
iMC Perfmのトラブルシューティング	
CPU使用率を監視するためにF5デバイスインスタンスにデータが表示されない	
症状	
ソリューション	
デバイスパフォーマンスモニターにデータがない	
症状	
ソリューション	
非メモリーインデックスのモニターの追加に失敗しました	50
症状	50
ソリューション	51
ディレクトリ共有時にデバイス監視データが消失	

症状	52
ソリューション	52
メモリーインデックスのモニターの追加に失敗しました	56
症状	56
ソリューション	57
モニターの追加直後にモニターデータを表示できませんでした。	59
症状	59
ソリューション	59
パフォーマンス管理の監視データはCLIの出力とは異なる	61
症状	61
ソリューション	61
VM移行後にVM監視インスタンスにデータがない	62
症状	62
ソリューション	63

# はじめに

このドキュメントでは、iMCプラットフォームのトラブルシューティングについて説明します。

# 一般的なガイドライン

iMCの問題をトラブルシューティングする場合は、次の一般的なガイドラインに従ってください。

- 問題の原因を特定するために、次のようなシステムおよび構成情報を収集します。
  - 障害の症状および時間。
  - オペレーティングシステム、データベースおよび配布方法などのインストール環境情報。
  - ログメッセージ。
     ログメッセージをダウンロードするには、System > System Configuration > Log Configurationを選択しボタンをクリックします。
  - 実行したステップとその結果。
- あなたがiMCプラットフォームが依存するWSMおよびプログラムとシステムに精通していることを 確認してください。ソフトウェア依存性情報は、iMCプラットフォームの管理者ガイドに記載されてい ます。
- プログラムファイルの置き換えまたはパッチのインストールが必要な場合は、リリースノートを使用してハードウェアおよびソフトウェアの互換性を確認してください。

# テクニカルサポートへの連絡

このドキュメントのトラブルシューティング手順を使用しても問題を解決できない場合は、H3C Japanのテ クニカルサポートに連絡してください。テクニカルサポート担当者に連絡するときは、次の情報を提供する 準備をしてください。

- 「一般的なガイドライン」に記載されている情報。
- 製品のシリアル番号。
- テクニカルサポートの登録番号(該当する場合)。

この情報は、サポートエンジニアができる限り迅速にお客様を支援するのに役立ちます。

iMCプラットフォームのトラブルシューティング

次の情報は、IMCプラットフォームのトラブルシューティングガイダンスを提供します。

# 2人のユーザーがデバイスにアクセスしている間は、 iMCはデバイスに設定を割り当てることができません。

症状

2人のユーザーがデバイスのシステムビュー(または機能ビュー)にアクセスしている間は、iMCはデバイス に設定を割り当てることができません。

ソリューション

考えられる原因は次のとおりです。

- iMCプラットフォームは、SNMPを介してデバイスと正しく通信できません。
- デバイスのシステムビュー(またはファンクションビュー)にアクセスしているユーザーの数が制限に達しました。一部のルータおよびハイエンドスイッチでは、ログインユーザー数に制限があり、デフォルトの制限は2です。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- iMCプラットフォームがSNMPを介してデバイスと正しく通信できることを確認します。
- デバイスから1人のユーザーを切断するか、デバイスのシステムビューにアクセスできるユーザーの最大数を増やします。
   デバイスのシステムビューにアクセスできるユーザーの最大数を増やすには、次のようにします。
  - a. デバイスにTelnet接続します。
  - **b.** システムビューを入力します。
  - c. ユーザーの最大数を変更するには、configure-user count numberコマンドを使用します。

# VLAN対応H3Cデバイスの表示に失敗しました

症状

VLAN対応H3CデバイスのVLAN情報は、SNMPツールを使用して取得できますが、iMCプラットフォームではこのデバイスをVLAN Devicesページに表示できません。デバイス上のSNMP設定は、iMCプラットフォーム上の設定と同じです。

### ソリューション

デフォルトでは、H3Cデバイス上のSNMPパケットの最大サイズは1500バイトです。iMCがSNMPを介し てデバイスのVLAN情報を取得するようにするには、デバイス上のSNMPパケットの最大サイズを(スイッ チでサポートされるポートの最大数)/8より大きい値に設定する必要があります。

たとえば、H3Cデバイスが19200個のポートをサポートする場合、SNMPパケットがVLAN情報を格納する

には少なくとも19200ビット(2400バイト)が必要です。デバイス上のSNMPパケットの最大サイズは1500 バイトであり、デバイスはVLAN情報を送信できず、iMCはデバイスのVLAN情報を取得できません。

次の式を使用して、必要なSNMPパケットの最大サイズを計算します。size=200+supported port number/8。ここで、200は、SNMPパケットの非データ部分(SNMPヘッダーなど)のサイズです。

この問題を解決するには、H3Cデバイス上のSNMPパケットの最大サイズを変更します。

- 1. デバイスにTelnet接続します。
- 2. system-viewコマンドを使用して、システムビューを入力します。
- **3.** SNMPパケットの最大サイズを変更するには、snmp-agent packet max-size byte-countコマンド を使用します。

# デバイスに到達できませんでした

# 症状

iMCはデバイスにpingできる場合でも、デバイスに到達できませんでした。

デバイスRDI02-S5820v2にはアクセスできません。未回復のアラームがまだ存在します。

#### 図1 デバイスの詳細

Resource > RDSI02-S5820v2(192.168.40.101)

♣Add to My Favorites ⑦ Help

)evice Details								Action	~
Device Label	RDSI02-S5820v2	Modify]		System Name	RDS102-S5820v2	Modify]		Synchronize	
Device Statu	IS Olynknown			Contact	ZY [ [Modify]			C Refresh	
IP Address	192.168.40.101			Location	DFDZ214 Modif	y]		🛃 Unmanage	
Mask	255.255.255.0			Runtime	37 day(s) 21 hour(s) millisecond(s)	) 14 minute(s	) 12 second(s) 0	Delete	
sysOID	1.3.6.1.4.1.25506.	1.844		Last Poll	2016-04-12 22:25:2	5		Conen Web Manager	
Device Mode	H3C S5820V2-540	)S-GE		Login Type	Telnet 📝 [Modify]			Ping	
Device Categ	<b>jory</b> Switches 📝 Mo	dify]		Interfaces	65Interface List			E Traceroute	
System Desc	<b>Fription</b> H3C Comware Pla H3C Tech. Co., Ltd	tform Software, ! . All rights reserv	Software Version 7 ved.	.1.045, ESS 2413 H3C	S5820V2-54QS-GE Cop	yright (c) 200	04-2014 Hangzhou	View Topology	
Maintenance	Tag No Maintenance Ta	ag Modify						MIB Management	ery
								🗔 Telnet/SSH Proxy	
Service Moni	toring Trap Destination			Network Assets				🚰 Open Device Panel	
▶Monitoring	Service		Total Ite	ems: O.			Customize	SSH	
								Configure	3
Recent 10 unre	covered alarms							Performance Monitor	3
Level C	lescription		Alarm at		Unrecovered	Alarms		Configuration Center	3
▲Major C	levice "RDSI02-S5820v2" de	nied access.	2016-04-13 00	:26:21				VLAN Management	3
▲Major It	nterface "M-GigabitEthernet	0/0/0" State	2016-02-24 02	:16:25 2					
				1					
				0		-			

### ソリューション

考えられる原因は次のとおりです。

- pingパラメータが正しく設定されていません。
- Device Accessibleは、トラップフィルタリング規則に対して設定されます。
- アラーム管理コンポーネントとサーバー間の通信が異常です。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- pingパラメータを変更します。
- フィルタリング規則を変更します。
- プロセスが停止状態かどうかを判別します。

#### pingパラメータを変更する

- 1. iMCICAdministratorとしてログインします。
- 2. クエリーfield Search device IP, label, status Q の右上隅に、デバイスのIPアドレス(たとえば、 0.100)を入力します。IMCはこのフィールドに対してファジーマッチをサポートします。
- 3. クエリーアイコンをクリックします。 🔍
- 4. クエリー条件に一致するデバイスが表示されます。
- 5. ターゲットデバイスのデバイスラベルリンクをクリックすると、その詳細が表示されます。
- 6. Action領域でConfigure > Modify Ping Parametersを選択します。

#### 図2 Pingパラメータの変更

Configure	~
🕞 Modify Device Label	
📴 Modify System Group Attributes	
S Modify SNMP Settings	
T Modify Telnet Settings	
NC Modify NETCONF Settings	
ssi Modify SSH Settings	
Modify SOAP/HTTP Settings	
Modify PowerShell Settings	
w Modify WMI Settings	
🚯 Modify Poll Interval	
😅 Modify Ping Parameters	
Modify Web Manager Parameters	
📇 Configure Access Device	
• ACL Configuration	
•	

**7.** pingを使用してデバイスが到達可能かどうかを識別するには、Support Ping Operationオプションを選択します。

デバイスが到達可能かどうかを識別するためにSNMPを使用する場合は、このオプションをクリアします。

#### 図3 Pingパラメータの設定



8. OKをクリックします。

#### フィルタリング規則を変更する

- 1. 管理者としてiMCにログインします。
- 2. Alarmタブをクリックし、ナビゲーションツリーからTrap Management > Filtering Trapを選択します。
- **3.** Filtering TrapページのTrap Name/Descriptionカラムで、Device AccessibleのModifyアイコ ンをクリックします。

図4 フィルタリング規則の3	変更
----------------	----

dify Filtering Rule					
Filtering Rule Name *	Device Accessible				
Filter Mode	Ву Тгар			•	
Alarm Trap Name *	Device SNMP Acces	sible(NMS Resource)			Select
Devices to Filter	192.168.40.21(192.168 216vcx-222(172.8.8.22 RDSI02-55820v2(192.1 55500(192.168.30.111) WIN-0RMC17N10JC(19	.40.21) 2) 68.40.101) 2.168.40.118)			Select Delete Parameter Settings
	Note: If no devices are Total Items: 0	e selected, this type of	Trap from all dev	vices will be filtered.	
Custom View	View Name	Туре	Delete		Select View
	No match found.				Parameter Settings
Validity Period Configuration *	Weekly			•	
Available Range *	📃 Sunday ✔ Mor	iday 🗹 Tuesday 🔽	Wednesday 🔽	🖞 Thursday 🗹 Friday ✔ Sa	turday
Start Time *	00:00	(hh:mm)			
End Time *	24:00	(hh:mm)			

- **4.** Modify Filtering RuleページでDevices to Filterから削除するデバイスを選択し、Deleteをクリックします。
- 5. OKをクリックします。

#### プロセスが停止状態かどうかを判別します。

1. マスターサーバーのIntelligent Deployment Monitoring Agentページでアラーム管理コンポーネントの 展開場所を指定するためにDeployタブをクリックします。

#### 図5 Deployタブ

ሕ Intelligent Deployment Monitoring A	gent				1 ×
Monitor Process Deploy Environment					
Component Name	Description	Version	Status	Deployment	Γ
🦸 iMC Platform - Resource Management	Manages network resources such as	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🝠 IMC Platform - Alarm Management	Monitors and troubleshoots network	imc plat 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🦸 iMC Platform - User Selfservice Manage	Manages the self-service business a	iMC PLAT 7.2 (E0403)	Undeployed		
🧊 iMC Platform - Guest Access Management	Manages guest accounts.	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - Intelligent Configuration	Offers software upgrade for networ	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - Report Management	Issues and displays service reports, $\ldots$	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - NE Management	Provides network element-level man	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🦪 iMC Platform - Performance Management	Monitors and analyzes network perfo	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - ACL Management	Configures ACLs for devices to imple	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	_
🧊 iMC Platform - Network Asset Manage	Manage network assets.	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - Security Control Center	Monitors network events and control	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - General Search Service	Manages the general search service	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - Syslog Management	Collects, filters, and analyzes syslog	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - VLAN Management	Manages VLAN resources.	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🧊 iMC Platform - Virtual Resource Manag	Manages virtual resources.	iMC PLAT 7.2 (E0403L	Deployed	Master Server	
🦪 VXLAN Management	Manages VXLAN in the network.	iMC VXLAN 7.2 (E0403	Deployed	Master Server	
🦪 Resource Automation Management	Resource Automation Management	iMC RAM 7.2 (E0402)	Deployed	Master Server	
🦪 QoS Manager - QoS Management	Configures and monitors QoS for the	iMC QoSM 7.2 (E0403)	Undeployed		
🦪 VAN Connection Manager	Manages virtual connections in the n	iMC VCM 7.2 (E0402)	Deployed	Master Server	
🧊 Wireless Service Manager	Manages the wireless service of the i	iMC WSM 7.2 (E0502P	Deployed	Master Server	
Select a component, and activate the popup r	nenu.	310 1101 7 0 /505000	<u> </u>		-11

- コンポーネントがマスターサーバーに配備されている場合は、次のようになります。
  - a. サーバーにログインします。
  - b. Processタブをクリックします。
  - c. プロセスimcfaultdm.exeのステータスを表示します。
- コンポーネントが下位サーバーにデプロイされている場合:
  - a. サーバーにログインします。
  - b. Processタブをクリックします。
  - c. プロセスimcfaultdm.exeのステータスを表示します。

#### 図6 プロセ タブ

📩 In	telligent Deploym	ent Monitoring	g Agent					_ 🗆	X
Moni	tor Process Deploy	Environment							
	Process	Status	Location	CPU(%)	MEM(KB)	Start Time	Туре	Startup M	
	dbman.exe	Started	Local Host	0	6,588	2016-04-13 00:19:21	Core Process	Auto	
0	imcacldm.exe	Started	Local Host	0	28,632	2016-04-13 00:19:10	Manageable	Auto	
0	imccfgbakdm.exe	Started	Local Host	0	19,072	2016-04-13 00:19:21	Manageable	Auto	
0	imccmdmgrdm.exe	Started	Local Host	0	18,184	2016-04-13 00:19:21	Manageable	Auto	
	imcfaultdm.exe	Started	Local Host	0	27,100	2016-04-13 00:19:21	Manageable	Auto	
O	imciccdm.exe	Started	Local Host	0	16,340	2016-04-13 00:19:21	Manageable	Auto	
0	imcinventorydm.exe	Started	Local Host	0	24,452	2016-04-13 00:19:10	Manageable	Auto	
0	imcjobmgrdm.exe	Started	Local Host	0	17,964	2016-04-13 00:19:21	Manageable	Auto	
0	imcl2topodm.exe	Started	Local Host	0	33,140	2016-04-12 22:20:25	Manageable	Auto	
0	imcnetresdm.exe	Started	Local Host	0	47,308	2016-04-12 22:20:25	Manageable	Auto	
0	imcperfdm.exe	Started	Local Host	0	26,332	2016-04-13 00:19:10	Manageable	Auto	
0	imcramdm.exe	Started	Local Host	0	104,832	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
0	imcsyslogdm.exe	Started	Local Host	0	17,104	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
0	imcupgdm.exe	Started	Local Host	0	20,568	2016-04-13 00:19:21	Manageable	Auto	
0	imcvlandm.exe	Started	Local Host	0	26,544	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
	imcvnmdm.exe	Started	Local Host	0	44,900	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
0	imcvxlandm.exe	Started	Local Host	0	35,532	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
0	imcwipsdm.exe	Started	Local Host	0	26,040	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
0	imcwlandm.exe	Started	Local Host	0	64,528	2016-04-13 00:37:37	Manageable	Auto	
0	imcwlanperfdm.exe	Started	Local Host	0	43,752	2016-04-13 00:19:11	Manageable	Auto	
	img.exe	Started	Local Host	0	8,124	2016-04-13 00:19:21	Core Process	Auto	Ţ
-	-								

2. プロセスがStopped状態の場合は、次のショートカットメニューからStart Processを選択します。 imcfaultdm.exeを実行してプロセスを開始します。

問題が解決しない場合は、H3C Japanテクニカルサポートに連絡してください。

# jserverプロセスの状態は次のとおりです。プロセス エラーのデータの監視

# 症状

デプロイメントモニターエージェントのProcessタブでは、jserverプロセスの状態は"プロセスエラーの監視データ"の通りです。

次のエラーメッセージまたは条件が表示される場合があります。

- Webページの応答が遅いか、応答しません。OutOfMemoryエラーがWebメモリーに表示される場合があります。
- デプロイメント監視エージェントのProcessタブでは、jserverプロセスの状態は" jserver process is Monitoring data of process error"です。
- 次のエラーメッセージがクライアント\log\imcforeground.logに表示される場合があります。
  - java.lang.OutOfMemoryError:Java ヒープスペース。
  - java.lang.OutOfMemoryError:GC オーバーヘッドの制限を超えました。
  - java.lang.OutOfMemoryError:PermGen スペース。
- デプロイメント監視エージェントのProcessタブでjserverプロセスを停止することはできません。

#### 図7 プロセスタブ

Process	Status	Location	CPU(%)	MEM(KB)	Start Time	Туре	Startup M
dbman.exe	Started	Local Host	0	5,460	2013-09-03 16:47:03	Manageable	Auto
imcacldm.exe	Started	Local Host	0	19,856	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imccfgbakdm.exe	Started	Local Host	0	15,104	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imccmdmgrdm.exe	Started	Local Host	0	15,444	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcfaultdm.exe	Started	Local Host	0	28,308	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imciccdm.exe	Started	Local Host	0	12,100	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcinventorydm.exe	Started	Local Host	0	15,852	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcjobmgrdm.exe	Started	Local Host	0	14,580	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcl2topodm.exe	Started	Local Host	0	21,536	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcnetresdm.exe	Started	Local Host	0	39,864	2013-09-03 16:47:08	Manageable	Auto
imcperfdm.exe	Started	Local Host	0	18,168	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcsyslogdm.exe	Started	Local Host	0	12,248	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcupgdm.exe	Started	Local Host	0	16,532	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcvlandm.exe	Started	Local Host	0	16,860	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
imcvnmdm.exe	Started	Local Host	0	24,660	2013-09-03 16:47:09	Manageable	Auto
img.exe	Started	Local Host	0	7,856	2013-09-03 16:47:03	Core Process	Auto
tftpserver.exe	Started	Local Host	0	11,404	2013-09-03 16:46:53	Manageable	Auto
jserver	Monitoring data of process error	Local Host	0	609,192	2013-09-09 12:07:05	Manageable	Auto

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- jserverプロセスに割り当てられた最大メモリーサイズは、IMCコンポーネントの要件を満たすことができません。
- Out Of MemoryEmasエラーが発生した後、jserverプロセスはアンマネージドの状態になるため、デプロイメント監視エージェントのProcessタブでは停止できません。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- jserverの最大メモリーサイズを変更します。
- jserverプロセスを停止します。

#### jserverの最大メモリーサイズを変更します。

- 1. デプロイメント監視エージェントのProcessタブでiMCプロセスを停止します。
- 2. コマンドプロンプトウィンドウ(Windowsの場合)またはターミナルウィンドウ(Linuxの場合)を開きます。
- 3. setmem.bat1024 768コマンド(Windowsの場合)またはsetmem.sh1024 768コマンド(Linuxの場合)を使用して、最大メモリーサイズを変更します。次の例では、Windowsを使用します:
  - ・ 上記の最初と2番目のエラーに対しては、Max Heap memory(setmemの最初のパラメータ)を 変更します。
  - 3番目のエラーでは、max PS Perm Gen memory(setmemの2番目のパラメータ)を変更します。

図8 最大メモリーサイズの変更



#### jserverプロセスを停止する

次の使用例は、Windowsを使用します。

- 1. Windowsタスクマネージャでjserverプロセスを停止します。
- 2. View > Select Columnsを選択し、表示されるSelect Process Page ColumnsページでVirtual Memory Size (Windows Server2003の場合)またはMemory-Commit Size (Windows Server2008以降の場合)を選択します。

#### 図9列の選択

ı	📱 Windows Task Manager 📃 🛛 🗙							
File	Options	View	Help					
Applications		Ref Up(	resh Now late Speed	F5	mance Net	tworking Users		
	Image Na	Sel	ect Columns		Me 🔻	Description		
	javaw.ex	e	SYSYEM	00	1,371,88	Java(TM)		
	javaw.exe	е	SYSTEM	00	116,220 K	Java(TM)		
	Ssms.exe	*32	Administ	00	112,376 K	SQL Serve	4	
	javaw.exe	е	SYSTEM	00	89,660 K	Java(TM)		
	javaw.exe	e *32	Administ	00	77,432 K	Java(TM)		
	JavaServi	ce.e	SYSTEM	00	64,736 K	JavaService		
	sqlservr.e	xe	SYSTEM	00	63,496 K	SQL Serve		
	imcramdm	.exe	SYSTEM	00	40,964 K	imcramdm		
	imcnetres	dm.e	SYSTEM	00	33,228 K	imcnetres		
	explorer.e	exe	Administ	00	27,320 K	Windows		
	imcfaultdn	n.ex	SYSTEM	00	23,172 K	imcfaultd		
	svchost.e	xe	SYSTEM	00	20,676 K	Host Proc		
	imevnmdm	n.ex	SYSTEM	00	17,640 K	imcvnmdm		
	imcl2topo(	dm.e	SYSTEM	00	17,636 K	imcl2topo		
	imcacldm.	exe	SYSTEM	00	16,852 K	imcacldm	.	
	imcoerfdm	n.ex	SYSTEM	00	15.072 K	imcoerfdm 工	1	
	Show processes from all users End Process							
Selec	t which col	umns w	ill be visible on	the Pr	ocess page			

#### 図10 メモリーの選択-コミットサイズ

👰 Windows Task Manager	_ 🗆 ×
File Options View Help	
Select Process Page Columns	×
Select the columns that will appear on the Process page of Task M	apager.
PID (Process Identifier)	<b>▲</b>
User Name	
Session ID	
CPU Usage	
CPU Time	
Memory - Working Set	
Memory - Peak Working Set	
Memory - Working Set Delta	
Memory - Private Working Set	
Memory - Commit Size	
Memory - Paged Pool	
Memory - Non-paged Pool	
Page Faults	
Page Fault Delta	
Base Priority	
	II
Processes: 88 CPU Usage: 0% Physical Memory: 8	Ľ

3. Windowタスクマネージャで、jserverプロセスとほぼ同じ量のメモリーを使用するjavaw.exeプロセス を停止します。

Linuxの場合は、システム監視でJavaプロセスを停止します。ps -ef grep javaコマンドを使用して JavaプロセスのPIDを検索し、kill -9 pidコマンドを使用して停止することもできます。

図11	javaw.exeプロ	セスの停止
-----	-------------	-------

📮 Windows Ta	ask Ma	anager							
File Options	View	Help							
Applications Processes Services Performance Networking Users									
Image Nan	ne	User Name	CPU	Me 🔻	Commit Size 🔺				
javaw. ex	9	SYSTEM	55	606,436 I	( Java (TM				
JavaServ	ic	SYSTEM	00	492,480 H	K JavaSer				
jaraw. cu		SYSTEM	00	310,468 B	( Java(TM 🧮				
javaw.ex	e	SYSTEM	00	280,724 H	( Java (TM				
sqlservr.	exe	SYSTEM	00	217,056 H	K SQL Ser				
javaw.ex	e *32	Admin	00	139,428 H	K Java(TM				
explorer.	exe	Admin	00	39, 476 H	K Windows				
incwland	n	SYSTEM	00	36,840 H	K imcwlandm				
incwlanp	er	SYSTEM	00	28,140 H	K imcwlan				
imemplsdr	n	SYSTEM	00	25,364 H	K imemplsdm				
imcnetre	sd	SYSTEM	00	25,104 H	K imcnetr				
imefault	dm	SYSTEM	00	23,672 H	K imcfaultdm				
imevrandm.	e	SYSTEM	00	22,096 H	K imevnmdm				
svchost.	exe	SISTEM	UU	20,044 1	K Windows				
imemplsvj	pn	SYSTEM	00	19,248 H	K imcmpls				
imcperfd	n	SYSTEM	00	16,572 H	K imcperfdm 🗾				
•					•				
🔽 Show pr	ocesse	s from all user	s		End Process				
rocesses: 88		PU Usage: 3%	6	Physica	al Memory: 86%				

4. デプロイメントモニターエージェントでjserverプロセスを再始動します。

# iMCのアップグレードに失敗しました。SQL Serverデ ータベースが動的ポートを使用しているからです。

# 症状

iMC V5.1は、SQL Serverデータベースが動的ポートを使用している場合、V5.2またはV7へのアップグレードに失敗することがあります。

アップグレード中に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
図12 エラーメッセージ
```

Error	×
8	Connecting to the database failed. Make sure that the database is running normally and you have input correct login information. 确定

 デプロイメントでは log%IMC\_ROOT%\deploy\log\dmslog.txtor%IMC\_ROOT%\deploy\log\dmalog.txtの場合は、 次のエラーメッセージが表示されます。

[ERROR] [Database Checking Thread]

[com.h3c.imc.deploy.dma.EnvPanel::retrieveSQLServerInfo(1010)] Access database error com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerException: The TCP/IP connection to the host 127.0.0.1, port 50304 has failed. Error: "Connection refused: connect. Verify the connection properties. Make sure that an instance of SQL Server is running on the host and accepting TCP/IP connections at the port. Make sure that TCP connections to the port are not blocked by a firewall."

### ソリューション

考えられる理由は、SQL Serverが動的に変更される可能性のあるポートを使用するためです。

iMC V5.2以降のバージョンのSQL Serverデータベースでは、iMC V5.1以前のバージョンで使用されているJTDSドライバではなく、Microsoft JDBCドライバが使用されています。

動的ポートが使用されている場合、JDBCドライバはポートを識別できず、iMCのアップグレード中にデータベース接続が中断される可能性があります。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. SQL Server構成マネージャを開きます。
- ナビゲーションツリーからSQL Server Network Configuration > Protocols for MSSQLSERVER を選択し、メインペインでTCP/IPをダブルクリックします。MSSQLSERVER文字列はデータベースイ ンスタンスのデフォルト名です。正しいデータベースインスタンス名が選択されていることを確認してく ださい。
- IPAII領域で、TCP Dynamic Portsフィールドをクリアし、TCP PortにスタティックTCPポートを設定します。 で変更できます。

CP/IP	Properties	? 2
	P8	<b>^</b>
A	ctive	Yes
Er	nabled	No
IP	P Address	fe80::5efe:169.254.82.173%14
T	CP Dynamic Ports	
T	CP Port	1433
ΞIF	P9	
A	ctive	Yes
Er	nabled	No
IP	P Address	fe80::100:7f:fffe%15
T	CP Dynamic Ports	
T	CP Port	1433
	PAII	
T	CP Dynamic Ports	50304
T	CP Port	
		<b>•</b>
TCP	Port	
TCP (	port	
	OK Canc	el Apply Help

#### 図13 TCPポートの設定

- 4. SQL Serverサービスを再起動します。
- 5. %IMC\_ROOT%\common\conf\server-addr.xmlファイルを開き、ファイル内のポート値を手順3で SQL Serverデータベース用に構成された静的ポートに変更します。

#### 図14 ポート値の変更

# 一部のデバイスをiMCに追加できませんでした。

### 症状

一部のデバイスをiMCに追加できませんでした。Server busy or Databaseエラーメッセージが表示されました。

図15 サーバーがビジー状態



#### 図16 データベースエラー



### ソリューション

サーバービジーエラーは、次の状況で発生する可能性があります。

- iMCのimcnetresdm.exeプロセスで例外が発生しました。
- デバイスを追加する時間がデフォルトのタイムアウト時間を超えました。

データベースエラーは、SQL実行の失敗が原因で発生する場合があります。これは通常、デバイス情報に認識できない文字が含まれている場合に発生します。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- imcnetresdm.exeプロセスを再起動します。
  - a. Intelligent Deployment Monitoring Agentで、Processタブをクリックします。実行中のすべてのプロセスが表示されます。
  - b. imcnetresdm.exeのショートカットメニューからStop Processを選択してプロセスを停止します。

- c. imcnetresdm.exeのショートカットメニューからStart Processを選択して、プロセスを再開します。
- タイムアウト時間を変更します。
- iMCサーバーにログインします。
  - a. iMCインストールパスの/client/confディレクトリにあるmsgcomm.Propertiesファイルを開き ます。
  - b. java.cpp.adddev.timeout=100の100を180~300の範囲の値に変更します。
  - **c.** jserver.exeプロセスを再起動します(imcnetresdm.exeの再起動手順を参照してください)。 プロセス)。
- 次の手順を実行します。
  - a. iMCサーバーにログインします。
  - **b.** iMCインストールパスの/server/conf/logディレクトリにあるログファイルimcnetresdm.txtを開きます。

d. descriptiontextコマンドを実行して、メモリーEthernet5/0/1の説明を変更します。
 メモリーの説明を変更するコマンドのサポートは、デバイスモデルによって異なります。

# 自動構成ポーリングの実行後にシステムグループ属 性の変更が反映されない

# 症状

自動構成ポーリングは実行されますが、システムグループ属性の変更は反映されません。たとえば、 contactおよびlocation属性の値は古い値のままです。

# ソリューション

属性は構成ポーリング中にポーリングされません。デフォルトでは、システムは2時間ごとに部分構成ポーリングを実行し、6回の部分構成ポーリング間隔ごとに完全構成ポーリングを実行します。部分構成ポーリング中は、デバイスステータスやメモリーステータス情報などの共通情報のみが同期化されます。完全構成ポーリング中は、すべてのデバイス情報が同期化されます。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

設定ポーリングが完了するまで待つか、デバイス情報を手動で同期します。

重大度レベルがエラーのログのうち、tbl\_devまたはtbl\_if\_infoへの挿入を含むログを問い合せます。
 2013-10-14 10:35:21.785 [ERROR (3092)] [THREAD(4408)] [CQvDBConnADP::executeSQL]

 Execute "insert into

 tbl\_if\_info(dev\_id,ifindex,ifdesc,iftype,ifspeed,ifphyaddress,ifadminstatus,if
 optstatus,ifmtu,iflastchange,ifalias,ifStatus, ifAlarmStatus, userifspeed,
 ifPhyAttribute,ifTrapFilterType, ifSendAlarmFlag,
 iflastchangetime,ifduplexstatus)
 values(263,289407002,'Ethernet5/0/1',6,'0','00:0f:e2:3d:ab:27',1,2,9216,'5708'
 ,'\*\*?,8,4,-1,1,0,0,convert(datetime,'2013-10-10 11:05:15:000',120),1)" failed,
 errorMsg:Incorrect syntax near '2013'.
 出力には、デバイス情報に認識されない文字が含まれているため、SQLの実行に失敗したこと
 が示されています。たとえば、Ethernet5/0/1の説明には漢字が含まれています。

# SQL Server2005データベースサーバーのホスト名 が変更された後、iMCをV7にアップグレードできませ んでした。

# 症状

iMCではSQL Server2005が使用され、データベースのインストール後にデータベースサーバーのホスト 名が変更されます。

ユーザーがiMCをV5.1またはV5.2からV7.0(E0102)にアップグレードしようとすると、エラーが発生し、アップグレード操作が失敗します。

次のエラーメッセージがdmalog.txt又はファイル

%IMC\_ROOT%\deploy\log\dmslog.txt(%IMC\_ROOT%はIMCのインストールパスです)に見つかります。 Could not find server 'CURR-HOSTNAME' in sysservers. Execute sp\_addlinkedserver to add the server to sysservers.

出力では、文字列CURR-HOSTNAMEはデータベースサーバーの現在のホスト名を表します。

## ソリューション

SQL Server2005のインストール時に、SQL Serverは実行するデータベースサーバーのホスト名を自動 的に記録します。サーバーのホスト名が変更されるたびに、レコードを手動で更新する必要があります。 更新しないと、SQL Server2005の一部の機能に障害が発生したり、使用できなくなったりする可能性が あります。

iMCをアップグレードするときにSQL Server2005のホスト名レコードを更新しないと、SQL Server2005の 機能障害によりアップグレード操作が失敗します。

この問題を解決するには、SQL Server2005のホスト名レコードを更新し、iMCアップグレード環境を修復します。

CLIでSQL Server2005をホストするサーバー上で次のコマンドを実行します。

- 1. データベースサーバーの現在のホスト名を確認して記録します。 hostname
- 2. saアカウント(または同じ権限を持つ別のアカウント)を使用してデータベースにログインします。

Osql -Usa -Ppassword

文字列passwordはsaユーザーのパスワードを表します。

3. SQL Serverによって記録されたサーバーホスト名を表示します。

Select @@servername

go exit

**4.** saアカウントを使用してデータベースに再ログインし、SQL Serverによって記録されたホスト名エント リーを変更します。

Osql -Usa -Ppassword

exec sp\_dropserver 'OLD-HOSTNAME'

go

```
exec sp_addserver 'NEW-HOSTNAME', 'LOCAL'
go
exit
```

OLD-HOSTNAMEを古いホスト名に、NEW-HOSTNAMEを現在のホスト名に置き換えます。

5. SQL Serverサービスを再起動して、変更を検証します。

以前の障害後にiMCを再アップグレードする前に、まず次のいずれかの方法を使用してiMCプラットフォーム を修復します。

- DBMANを使用してデータベースをバックアップした場合は、DBMANを使用してバックアップデ ータベースをリストアしてから、iMCを再アップグレードします。
- データベースをバックアップしていない場合は、最初にdeploy.xmlファイルを次の場所にバックアップします。
   %IMC\_ROOT%\deploy\components\iMC-PLAT\V700R001B01D005\ディレクトリで、元のファイ



# iMCは、異なるデバイスに対して同一デバイス のアラームを生成します。

ルを添付ファイルに置き換えてから、iMCを再アップグレードします。

症状

iMCは、実際には異なるデバイスであるのに、同一デバイスのアラームを生成します。

## ソリューション

iMCはMIBノード情報を読み取り、2つのデバイスまたは2つのデバイスメモリーのMACアドレスが同じであることを検出します。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. iMCにログインし、Alarmタブをクリックします。
- **2.** ナビゲーションツリーから、Trap Management > Filtering Trapを選択します。サービスの導入ページが開きます。
- Addをクリックします。Add Filtering Ruleページが開きます。図17に示すように、Filtering Rule Name、Filter ModeおよびAlarm Trap Nameフィールドを構成し、他のすべてのフィールドはデフォ ルトのままにします。
- 4. OKをクリックします。

#### 図17 フィルタリング規則の追加

Filtering Trap > Add Filtering Rule

Add Filtering Rule					
Filtering Rule Name *	Filter identical device				
Filter Mode	By Trap		•		
Alarm Trap Name *	Discover Identical Devi	ce(NMS Resource)			Select
					Select
Devices to Filter					Delete
					Parameter Settings
	Note: If no devices are se Total Items: 0.	elected, this type of Tra	p from all devices	will be filtered.	
Custom View	View Name	Туре	Delete		Select View
	No match found.				rarameter settings
Validity Period Configuration *	Weekly		•		
Available Range *	📃 Sunday 🛃 Monday	y 🛃 Tuesday 🛃 W	'ednesday 🛃 Thi	ursday 🗹 Friday 🗹 Saturday	
Start Time *	00:00	(hh:mm)			
End Time *	24:00	(hh:mm)			
	ОК (	Cancel			

? Help

# iMCは一部のサービスファンクションの問合せ基準 を自動的に記録します。

# 症状

iMCプラットフォーム7.0以前のバージョンでは、問合せ操作を使用すると、一部のサービス機能(レポート など)の問合せ基準が自動的に記録されます。

次の例では、レポートテンプレートを使用します:

- 1. Report Template Listページで、問合せ基準を入力します。Queryをクリックします。
- 2. その他のページにアクセスします。
- 3. Report Template Listページに再度アクセスします。以前に入力した問合せ基準は存在します。

#### 図18 Report Template List

Report > Report Templat	e List				(?) Help
Query Template					
Template Name Topology Re;	oort <sub>Type</sub> Resour	ce Statistics Report	▼ Query	r R	leset
+ Add C Refresh	📝 Access Rights		Down	load Data S	Source File
Template Name	Туре	Definition Type	Details	Modify	Delete
Topology Report	Resource Statistics	Pre-defined	illo,		
1-1 of 1. Page 1 of 1.			ia <a 1<="" td=""><td>►&gt; ►1</td><td>50 💌</td></a>	►> ►1	50 💌

### ソリューション

iMCでは、同じログイン中に問合せ操作を使用すると、一部の共通サービス機能の問合せ基準が自動的 に記録されます。次に同じページにアクセスするときに、問合せ基準を再度入力せずに既存の問合せ結 果を使用できます。

この問題を解決するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ログアウトしてから再度ログインします。
- Query Template領域でResetをクリックします。

#### 図19 問合せ基準のリセット

Report > Report Template List OHelp							
Query Template							
Template Name	Туре		▼ Quer	y Reset			
+ Add C Refresh	🛃 Access Rights		Dowr	nload Data Source File			
Template Name	Туре	Definition Type	Details	Modify Delete			
Backup Failed Devi	Intelligent Configur	Pre-defined	Eq.				
Capacity Report	Resource Statistics	Pre-defined	ind.				
Changes Report	Resource Statistics	Pre-defined	ind.				
Custom View Data	Performance Analy	Pre-defined	i Eq.				
Device Asset Report	Resource Statistics	Pre-defined	ind,				
Device Category St	Resource Statistics	Pre-defined	ind,				
Device Connectivity	Alarm Analysis Rep	Pre-defined	ind.				
Device Connectivity	Alarm Analysis Rep	Pre-defined	ind.				

# データエクスポートファイルが大きすぎます

### 症状

データエクスポートファイルが大きすぎて、大きすぎるディススペースが必要です。

### ソリューション

データエクスポートファイルには大量のデータが含まれており、使用可能なディスク領域を大量に消費しま

す。この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- Save File for(1-9999)N Daysの値を変更します。期限切れのデータエクスポートファイルは自動的に削除されます。
  - a. iMCにログインし、Systemタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーから、System Configuration > Data Exportを選択します。
  - c. Data Export Settingsページで、Save File for(1-9999)N Daysフィールドを変更します。
  - **d.** OKをクリックします。

#### 図20 データエクスポート設定の変更

	History SCC - Att	ack Alarm S	MC - Event Ope	ration Log Ala	irm Export	Frap Export
Client Online History Interferen	ce Data AP Availabil	ity iNode Clier		Detected AP Hi	story Detec	ted Client History
Detected SSID History WIPS See	curity Event History	- Guest Access Log	r Syslog De	- evice Updown Alarr	ms Interface	Updown Alarms
Export Triggers						
✔ By Quantity						
Threshold (1-999999) *	10000	Entries	Export but the	e last (1-999999) *	8000	Entries
By Time						
Threshold (1-365) *	60	Days	Export but the	se in last (1-365) *	30	Days
Export Settings						
Target File Type	CSV		<ul> <li>Save File for</li> </ul>	(1-9999) * 99	99	Days
Execute Command After Export			?			
Target File Path	D:\Program Files\iMC\client\backu	ıp\sccFaultExport				
			# <b>?</b>			

- エクスポートディレクトリを変更します。新しいデータエクスポートファイルは、新しいストレージスペースに 保存されます。
  - a. iMCにログインし、Systemタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーから、System Configuration > Data Exportを選択します。
  - **c.** Data Export Settingsの右上隅にあるChange Export Directoryリンクをクリックします。 となります。
  - d. 開いたChange Export Directoryページで、新しいエクスポートディレクトリパスを入力します。
  - e. OKをクリックします。

#### 図21 エクスポートディレクトリの変更

		SCC - Attack Alarm			
	Interference Data	AP Availability iNode	Elient Located History		Detected Client History
	WIP: Change Ex	port Directory	×	: Updown Alarms	
Export Triggers	Export	Data to client\backup			
🛃 By Quantity		OK Cancel			
	19999) *			(1-999999) * 800	)0 Entries
Threshold (1-99					
Threshold (1-99					

#### 図22 エクスポートディレクトリの変更

enter					Defa	ault Perspective	•	Success	X	
User	Service Al	arm Repo	rt System				U	The export directory successfu modified.	ully 🔍 🗌	11
😫 Sy	stem > Data Export Setti	ings					Change	Export Directory Export Immed	liately <b>()</b> Het	þ
	VAN Connection Manag Client Online History Detected SSID History Export Triggers	ger-Operation His Interference D WIPS Securi	tory SEC - Attack A lata AP Availability ty Event History Gue	Alarm SMC - E iNode Client Loc st Access Log	ivent Operat ated History Syslog Devi	tion Log Al Detected AP H ce Updown Alar	arm Expor istory ms It	t Trap Export Detected Client History hterface Updown Alarms		
	Threshold (1-9	199999) *	10000	Entries	Export but the la	st (1-999999) *	8000	Entries		

- 不要なデータエクスポートファイルを手動で削除します。
  - a. iMCにログインし、Systemタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーから、System Configuration > Data Exportを選択します。
  - c. Data Export SettingsページのExport Settings領域で、ターゲットファイルパスを表示します。
  - d. このターゲットファイルディレクトリに移動し、不要なデータエクスポートファイルを削除します。

# 管理者には、iMCリソースに対する読取り権限のみ があります。

### 症状

オペレータは、別のiMCホストで生成されたライセンスを使用して、iMCをバックアップサーバーとして登録 します。再起動してiMCにログインした後は、管理者はiMCリソースに対する読取り権限のみを持ちます。

ソリューション

ライセンスは別のiMCホストによって生成され、バックアップiMC管理者にiMCリソースを変更する権限は 付与されません。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. 正しいiMCシリアル番号を持つ新しいライセンスを生成します。
- 2. Register Your Productページにアクセスし、アクティベーションキーファイルの横にあるChoose Fileをク リックして指定したホストによって生成されたライセンスを選択します。
- 3. OKをクリックします。
- 4. ライセンスの種類としてPrimaryを選択します。
- 5. OKをクリックします。

#### 図23 iMCの登録

Activation Key File *	Choose File H3Ci	MC2014576.lic	
Register as *	Primary	¥	

# 指定されたメモリーのアラームをフィルタできません でした。

症状

Interface Up/Down Alarm FilterパラメータがFilterとして設定された後でも、指定されたメモリーのアップ またはダウンアラームを受信できます。

#### 図24 メモリーのダウン

Level ≎	Alarm Source 🗢	Type ≎	Description \$	Recovery \$	Ack Status ≎
🔺 Major	WIN- VQQ8T6E4F2U(192.16 8.40.130)	⊒ <b>j</b> iMC	The instance "[Device]" of "performance task" "Device Unreachability Proportion" is in threshold range (">=50%"), current value is "100%".	Aunrecover ed	AgUnacknowle dged
🔺 Major	S5500(192,168,30,11 1)	📣 Тгар	The interface GigabitEthernet2/0/20 is DOWN.	<b>A</b> ∂\$SYSTEM	AgUnacknowle dged
🔺 Major	S5500(192,168,30,11 1)	🔥 Trap	The interface GigabitEthernet2/0/23 is DOWN.	<b>A</b> ∂\$SYSTEM	Aunacknowle dged
🔺 Major	S5500(192,168,30,11 1)	🗛 Trap	The interface GigabitEthernet2/0/6 is DOWN.	<b>A</b> ∂\$SYSTEM	Aunacknowle dged
🔺 Major	WIN- VQQ8T6E4F2U(192.16 8.40.130)	⊒ <b>j</b> iMC	The instance "[Device]" of "performance task" "Device Unreachability Proportion" is in threshold range (">=50%"), current value is "100%".	<b>&amp;</b> \$SYSTEM	Aunacknowle dged
🔺 Major	h04143z.h3c.huawei- 3com.com(192.168.5. 40)	ц <b>і</b> МС	The instance "[Memory: 1]" of "performance task" "Memory Usage" is in threshold range (">=90%"), current value is "92.349%".	<b>&amp;</b> \$SYSTEM	Aunacknowle dged

# ソリューション

次のような理由が考えられます。

- メモリーに接続するPCまたはホストは、iMCに追加されません。
- Interface Up/Down Alarm FilterパラメータはFilterとして設定されます。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- メモリーに接続するPCまたはホストをiMCに追加します。
  - a. 管理者としてiMCにログインします。
  - **b.** Resourceタブをクリックし、ナビゲーションツリーからResource Management > Add Deviceを選択します。
  - c. Add Deviceページで、Host Name/IPにPCまたはホストのIPアドレスを入力します。

- **d.** OKをクリックします。
- e. 指定したメモリーのInterface Up/Down Alarm Filter設定を変更します。
- a. 管理者としてiMCにログインします。
- **b.** Resourceタブをクリックし、ナビゲーションツリーから View Management > Port Groupを選択 します。
- c. Port Groupページで、グループ名のリンクをクリックして、メモリーの詳細を表示します。
- d. Interface Description列で、ターゲットメモリーの名前リンクをクリックします。
- e. ページ右側のActionエリアでUP/Down Alarm Filterを選択します。

#### 図25 Up/Downアラームフィルタ

Acti	on	~
C	Synchronize	
C	Refresh	
	Unmanage	
•	Up	
8	) Down	
2	User-Defined Speed	
2	Up/Down Alarm Filter	
6	View Topology	
C,	IP/MAC Learning Query	

- f. Interface Up/Down Alarm FilterリストからSystem Settingsを選択します。
- g. OKをクリックします。

#### 図26Configure interface Up/Downフィルタ

🥏 Resource > S5500(192.168.30.111) > Interface List > GigabitEthernet2/0/20 > Interface Up/Down Alarm Filter



# アクセスデバイス上のメモリーのシャットダウンに失敗しました。

症状

不明なデバイスがメモリーを介してネットワークにアクセスしようとすると、iMCはセキュリティポリシーに従

ってアクセスデバイス上のメモリーをシャットダウンできません。

## ソリューション

アクセスデバイス上の読取りおよび書込みコミュニティ名は、iMC上の名前と同じではありません。この 問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. 管理者としてiMCにログインします。
- **2.** Resourceタブをクリックし、ナビゲーションツリーからView Management > Device Viewを選択 します。
- **3.** Device Labelカラムで、読み取りおよび書き込みコミュニティ名を変更するデバイスの名前リンクをクリックします。
- **4.** Device Detailsページで、ページの右端にあるConfigure領域で、Modify SNMP Settingsを選択します。
- 5. Read-Write Community Stringには、アクセスデバイス(この例ではprivateに設定されている Read-Writeコミュニティ名を入力します。

図27	SNMP/	ペラメー	ータの変更
-----	-------	------	-------

🧊 192.168.1.135/imc/res/paratemplate/snmp/select.jsf?beanNam 📃 🔲 🗙							
🗋 192.168.1.135/imc/res/paratemplat	192.168.1.135/imc/res/paratemplate/snmp/select.jsf?beanName=resDeviceBean						
●Edit SNMP Parameters ◯:	Select an Existing Template						
Parameter Type *	Parameter Type * SNMPv2c -						
Read-Only Community String	Read-Only Community String						
Read-Write Community String	Read-Write Community String						
Timeout (1-60 seconds) *	4						
Retries (1-20) *	Retries (1-20) * 3						
Test OK Cancel							

# iMCコンポーネントの配布に失敗した後、データベース に接続できない

# 症状

iMCの展開が完了した後にユーザーがiMCを起動しようとすると、Intelligent Deployment Monitoring Agent によって、データベースに接続できないというプロンプトが表示されます。

図28 データベースへの接続に失敗した場合

k Int	elligent Deployment Monitoring Agent 📃 🗖 🗙
Monitor Process Deploy Environment	
Running Environment Architecture: amd64 OS Name: Windows Server 2012 OS Version: 6.2 OS Patch: Login User: Administrator Server Type: Master Database: Microsoft SQL Server Database Version: 11.00.3000 Database Server: Local Host Mem occupied by DB: 272 MB Max. heap/non-heap mem: 2048m/1024m	Database Space Usage Connecting to the database failed.
	Refresh Error Details
Database Backup and Restore Note The Backup operation uses the Before you use backup funct Status: Disable Auto backup and restore.	ne auto backup settings. ion, make sure the auto backup settings has been configured in the Configure. Configure Backup Restore View Log

# ソリューション

考えられる原因は、iMCコンポーネントの配備に失敗したものの、その設定情報がserver-addr.xmlファイルに残っているために、iMCがコンポーネントのデータベースへの接続に失敗したことです。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. 接続できないデータベースを識別するには、次のいずれかの方法を使用します。
  - Intelligent Deployment Monitoring AgentのEnvironmentタブにあるError Detailsをクリックして、エラーの詳細を表示します。
  - iMCインストールパスの/deploy/logディレクトリにあるデプロイメントログファイルdmalog.txtを表示します。

この例では、qosm\_dbという名前のデータベースは接続できません。

#### 図29 エラーの詳細

	Error Detail	S	x
Error Details			
tion: Canno	ot open database "qosm db"	requested by the login.	^
erException	makeFromDatabaseError(SQ	LServerException.java:21	E
nHandler.or	EOF(tdsparser.java:254)		=
er.parse(to	lsparser.java:84)		_
erConnectio	on.sendLogon(SQLServerConr	ection.java:2908)	
erConnectio	on.logon(SQLServerConnecti	.on.java:2234)	
erConnectio	on.access\$000(SQLServerCor	nection.java:41)	
erConnectio	on\$LogonCommand.doExecute(	SQLServerConnection.java	4 I.
and.execute	e(IOBuffer.java:5696)		
erConnectio	on.executeCommand(SQLServe	rConnection.java:1715)	$\sim$
<	10	>	
	ОК		



3	dmalog.txt - Notepad	- •	x
File Edit Fo	ormat View Help		-
at at at	t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnection.connect(SQLServerConnectio t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver.connect(SQLServerDriver.java:1 t java.sql.DriverManager.getConnection(DriverManager.java:582) t java.sql.DriverManager.getConnection(DriverManager.java:154)	n.java 012)	:82 ^
at at at	t com.h3c.imc.deploy.dma.EnvPanel.a(EnvPanel.java:1058) t com.h3c.imc.deploy.dma.EnvPanel.C(EnvPanel.java:1013) t com.h3c.imc.deploy.dma.EnvPanel.a(EnvPanel.java:126) t com.h3c.imc.deploy.dma.az.run(EnvPanel.java:936)		
2016-03-18 com.micros at	3 00:56:46 [ERROR] [Database Checking Thread] [com.h3c.imc.deploy.dma.EnvPane soft.sqlserver.jdbc.SQLServerException: Cannot open database "qosm_db" reques t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerException.makeFromDatabaseError(SQLSe t com.microsoft.sqlserver.jdbc.TDSTokenHandler.onEOF(tdsparser.java:254)	l::a(1 ted by rverEx	162 thi cep
at at at at	<pre>t com.microsoft.sqlserver.jdbc.lbsrarser.parse(tusparser.java.ov) t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnection.sendLogon(SQLServerConnect t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnection.access\$000(SQLServerConnect t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnection\$LogonCommand.doExecute(SQL</pre>	ion.ja java:2 tion.j Server	va:: 234 ava Coni
at at at	t com.microsoft.sqlserver.jdbc.TDSCommand.execute(IOBuffer.java:5696) t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnection.executeCommand(SQLServerCo t com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnection.connectHelper(SQLServerCon	nnectio nectio	on.; n.j. v

2. iMCインストールパスの\common\confディレクトリにあるserver-addr.xmlファイルを開き、データベ ースが関連付けられているコンポーネントを検索します。コンポーネントがデータベースに正しく関連 付けられていることを確認します。

ファイルにあるように、qosm\_dbという名前のデータベースは、iMC QoS Managerコンポーネントに関連 付けられています。

#### 図31 QoSM構成の検索

server-addr.xml - Notepad	×
File Edit Format View Help	-
<db-config 127.0.0.1"="" address="127.0.0.1" dbname="perf_db" id="iMC-PLAT" instance="IMCDB" password="-105-61-35-7-31-&lt;/td&gt;&lt;td&gt;: ^&lt;/td&gt;&lt;/tr&gt;&lt;tr&gt;&lt;td&gt;&lt;/component&gt;&lt;/td&gt;&lt;td&gt;&lt;/td&gt;&lt;/tr&gt;&lt;tr&gt;&lt;td&gt;&lt;component address="></db-config>	
<pre><db-config 127.0.0.1"="" address="127.0.0.1" dbname="config_db" id="iMC-PORTAL-KERNEL" instance="IMCDB" password="-105-61-35-7-3;&lt;/pre&gt;&lt;/td&gt;&lt;td&gt;&lt;/td&gt;&lt;/tr&gt;&lt;tr&gt;&lt;td&gt;&lt;/component&gt;&lt;/td&gt;&lt;td&gt;&lt;/td&gt;&lt;/tr&gt;&lt;tr&gt;&lt;td&gt;&lt;component address="></db-config></pre>	
<custom-addr name="PORTAL_IP" value="200.2.2.100"></custom-addr>	
<custom-addr name="PORTALSERVER_IPv6_ADDR" value=""></custom-addr>	
<custom-addr name="PORTAL_SERVER_ID" value="20160303181956692"></custom-addr>	=
<pre></pre>	
<pre><component 10="Int-QUSM" address="12/.0.0.1" p<="" td=""><td></td></component></pre>	
(do-config address= 127.0.0.1 doname- dosm_db instance- incob password= -105-01-55-5-51-	
<pre></pre> // Component: address="127.0.0.1" id="iMC_REPORT"\\	
(dh_config addpace="127.0.01" the incomponental dh" inctance="IMCDB" paceword="_105_61_35	
<pre>cdb-config address="127.0.0.1" dbname="report db" instance="IMCBE" password=":105-61-35-38-</pre>	
<pre></pre>	
<component address="127.0.0.1" id="iMC-SCC"></component>	
<component address="127.0.0.1" id="iMC-SEPLAT"></component>	
<component address="127.0.0.1" id="iMC-SSA"></component>	~
C III	at

3. Intelligent Deployment Monitoring Agent のDeploy タブで、QoS Managerコンポーネントを右ク リックし、ショートカットメニューからDeployを選択してコンポーネントを再デプロイします。

#### 図32 Deployタブ

ki li	ntelligent Deployment Monito	oring Agent		_ 0	x
Monitor Process Deploy Environment					
Component Name	Description	Version	Status	Deployment	
iMC Platform - Network Asset Manage	Manage network assets.	IMC PLAT 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	^
iMC Platform - Security Control Center	Monitors network events and control	IMC PLAT 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
IMC Platform - General Search Service	Manages the general search service	iMC PLAT 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🍠 iMC Platform - Syslog Management	Collects, filters, and analyzes syslog	iMC PLAT 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🍠 iMC Platform - Virtual Resource Manag	Manages virtual resources.	iMC PLAT 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🍠 iMC Platform - Server & Storage Auto	Manages network resources such as	iMC SSA 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🥩 VXLAN Management	Manages VXLAN in the network.	iMC VXLAN 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🥔 Intelligent Strategy Proxy	iMC Intelligent Strategy Proxy	iMC ISP 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🥩 User Access Manager - User Access M	Configures users and access service	iMC UAM 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🧊 User Access Manager - Portal Server	Delivers Portal authentication.	IMC UAM 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🥔 User Access Manager - EIP Server	Delivers End User Intelligent Profiling	iMC EIP 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🗊 User Access Manager - EIP Sub Server	Delivers End User Intelligent Profiling	iMC EIP 7.2 (E0403)	Undeployed		
🥩 User Access Manager - Policy Server	Delivers security authentication.	iMC UAM 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	=
User Access Manager - User SelfService	Offers self-query and maintenance	iMC UAM 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🗊 Third-Party Page Publish Server	Provides a special Web container to	iMC UAM 7.2 (E0403)	Deployed	Master Server	
🇊 User Access Manager - Portal Server	Delivers Portal authentication.	IMC UAM 7.2 (E0403)	Undeployed		
🥔 User Access Manager - WeChat Authe	Users can access the Internet by foll	iMC UAM 7.2 (E0403)	Undeployed		
🗊 Third-Party Page Publish Server	Provides a special Web container to	IMC UAM 7.2 (E0403)	Undeployed		
<i>ẩ</i> QoS Manager - QoS Management	Configures and monitors QoS for the	iMC QoSM 7.2 (E0403)	Undeployed		~
Select a component, and activate the popup	menu.				

4. それでも展開に失敗する場合は、server-addr.xmlファイル内のコンポーネント情報を削除します。

#### 図33 QoSM構成の削除

server-addr.xml - Notepad	×
File Edit Format View Help	
<pre><db-config 127.0.0.1"="" address="127.0.0.1" dbname="perf_db" id="iMC-PLAT" instance="IMCDB" password="-105-61-35-7-31-&lt;br&gt;&lt;/component&gt;&lt;br&gt;&lt;component address="> <db-config 127.0.0.1"="" address="127.0.0.1" dbname="config_db" id="iMC-PORTAL-KERNEL" instance="IMCDB" password="-105-61-35-7-3&lt;br&gt;&lt;/component&gt;&lt;br&gt;&lt;component address="> <component address="127.0.0.1" id="iMC-PORTAL-KERNEL"> <custom-addr name="PORTAL_IP" value="200.2.2.100"></custom-addr> <custom-addr name="PORTAL_SERVER_IPv6_ADDR" value=""></custom-addr> <custom-addr name="PORTAL_SERVER_ID" value="20160303181956692"></custom-addr></component></db-config></db-config></pre>	2 ×
	≡
<pre><component address="127.0.0.1" id="iMC-QOSM">      <db-config 127.0.0.1"="" address="127.0.0.1" dbname="qosm_db" id="iMC-REPORT" instance="IMCDB" password="-105-61-35-5-31-      &lt;/component&gt;&lt;/pre&gt;&lt;/td&gt;&lt;td&gt;-&lt;/td&gt;&lt;/tr&gt;&lt;tr&gt;&lt;td&gt;&lt;pre&gt;&lt;component address="></db-config></component></pre>	
< III 5	kt

5. Intelligent Deployment Monitoring Agentを再起動します。

# ファイアウォールが有効な場合、iMC LiveUpdateは使用できません。

### 症状

iMC LiveUpdate機能は、iMCが配置されているサーバーでファイアウォールが有効になっている場合は 使用できません。

# ソリューション

iMCがインストールされているサーバーでファイアウォールを有効にすると、データベースサーバーはiMC LiveUpdate要求などのiMC通信要求を受信できなくなります。

この問題を解決するには、iMCが存在するサーバーでファイアウォールをディセーブルにします。

# Jserver.exeを開始できない

### 症状

iMCのデプロイメントが完了すると、iMCメインプロセスjserver.exeを開始できなくなり、iMCが正常に動作しなくなります。

### ソリューション

次の理由により、jserver.exeプロセスを開始できません。

- iMCメインプロセスjserver.exeによって使用されるポートは、サーバー上で実行されている別のプロセスによって占有されます。
- iMCはデータベースサーバーに接続できません。
- iMCはWindows Server2003 64ビット版に導入されておりWindowsServer2003-KB942288-v4-x64.exeは、iMCの導入前にはインストールされていません。
- iMCがデプロイされているサーバーに十分なメモリーがありません。
- Java仮想マシンのメモリーが不足しています。
- iMC内部リスナーを開始できません。
- その他不明な理由。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- ポートが別のプロセスによって占有されている場合は、次のいずれかの方法を使用します。
  - iMCを停止します。iMCのインストールパスにある\client\conf\http.propertiesファイルにアクセスします。ファイル内のimc.http.portまたはimc.https.portの値を、サーバーで使用可能なポート番号に変更します。
  - jserverが使用するポートを占有しているプロセスを停止します。
- iMCサーバーがデータベースサーバーに正しく接続されているかどうか、およびiMCデータベースが データベースサーバー上で正しく起動されているかどうかを確認します。
- iMCを停止し、WindowsServer2003-KB942288-v4-x64.exeパッチをサーバーにインストールして から、iMCインストールパスで\deploy\components\server\vcredist.exeを手動で実行します。
- readme\_platに記載されているサーバー要件に従って、サーバー設定を調整します。
- iMCが32ビットオペレーティングシステムにインストールされている場合は、Webプロセス用割当て 可能なJava実行メモリーを手動で変更します。
  - a. iMCインストールパスで\client\bin\setmem.batスクリプトまたはsetmem.shスクリプトを実行します。
  - b. setmem 1024 512コマンドを実行します。
  - o 値1024は最大ヒープメモリーサイズです。値512は最大PermGenメモリーサイズです。
  - 32ビットオペレーティングシステムでは、ヒープメモリーサイズは1024を超えることはできません。
     また、PermGenメモリーサイズは768を超えることはできません。
  - c. jserverプロセスを再起動します。jserver.exeプロセスがまだ起動できない場合は、メモリー サイズを小さくして、起動できるようになるまでjserverを再起動します。
- 内部リスナーが失敗した場合、または原因が見つからない場合は、/client/logにあるすべてのログを収 集します。
   iMCインストールパスのディレクトリを指定し、H3C Japanテクニカルサポートに送信して分析を依頼します。

iMC NMEのトラブルシューティング

次の情報は、iMC NMEのトラブルシューティングガイダンスを提供します。

# iMCアラームショートメッセージ転送障害

### 症状

iMCアラームショートメッセージ通知機能が有効になり、iMCはアラームを受信できますが、携帯電話はア ラームショートメッセージを受信できません。

### ソリューション

GSMモデムの性能を考慮して、メッセージ通知機能を設定するときには、アラームレベルをあまり多く選択しないでください。

考えられる原因は次のとおりです。

- GSMモデムで問題が発生。
- アラーム通知の設定が正しくありません。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- GSMモデムが正しく動作していることを確認します。
- qvdm.confファイルのLogLevelを変更します。
- アラーム通知設定が正しいことを確認してください。

#### GSMモデムが正しく動作していることを確認します。

- IMCアラームプロセスを停止します(このプロセスでは、GSMモデム用のポートが使用される場合 があります)。
  - a. iMCにログインし、Intelligent Deployment Monitoring Agentに移動します。
  - **b.** Processタブをクリックします。
  - c. imcfaultdm.exeプロセスを右クリックし、ショートカットメニューからStop Processを選択します。
- 2. GSMモデムをiMCサーバーシステムに接続します。分散iMCシステムの場合は、GSMモデムをア ラームプロセスを実行しているホストに接続する必要があります。
- 3. GSMモデムの電源を入れ直します。数秒待って、モデムが正常に動作しているかどうかを確認します。通信LEDが約3秒間隔で点滅する場合は、モデムは正常に動作しています。モデムが正常に動作していない場合は、モデムのトラブルシューティングを行います。詳細については、モデムのマニュアルを参照してください。
- 4. ターミナルエミュレーションプログラム(HyperTerminalなど)を実行してモデムに接続し、正しい通信 設定を構成します。速度設定が正しくない場合は、文字化けして表示されます。
- 5. atコマンドを入力して、モデムが正しく接続されているかどうかを確認します。OKが返された場合は、 モデムは正しく接続されています。ERRORが返された場合は、手順4に進んで設定を変更します。
- 6. at+cscsaコマンドを入力して、正しいSMSC番号が設定されているかどうかを確認します。SMSC番号がまだ設定されていない場合は、at+csca="+8613800100500"コマンドを入力してSMSC番号を設定します。この例では、SMSC番号は8613800100500です。

7. モデムが短いメッセージを送信できることを確認します。

短いメッセージをテキスト形式で送信するようにモデムを設定するには、次の手順を実行します。

- a. at+cmgf=1と入力して、メッセージフォームをテキストに設定しま at+cmgs=18310042216と入力します。この例では、ショートメッセージを受信する電話番 号は18310042216です。
- b. 大なり記号(>)に続けて短いメッセージを入力し、携帯電話がメッセージを受信するかどうかを確認します。携帯電話がメッセージを受信しない場合は、モデムを交換します。

図34 ショートメッセージの設定

```
at
OK
at+csca?
+CSCA: "+8613800100500",145
OK
at+cmgf=1
OK
at+cmgs=18310042216
> hello+
+CMGS: 88
OK
-
```

PDU形式で短いメッセージを送信するようにモデムを設定するには、次の手順を実行します。

- a. at+cmgf=0と入力して、メッセージフォームをPDUに設定します。
- b. at+cmgs=20と入力して、PDUパケット長を設定します。
- c.>0891683108100005f011ff0b818113002412f60008a806c8329bfd0e01と入力し、Ctrl+Zを押 します。携帯電話にHello!というメッセージが表示されるかどうかを確認します。メッセージが表 示されない場合は、モデムを交換してください。

#### 図35 PDUの構成

```
at
OK
at+cmgf=0
OK
at+cmgs=20
> 0891683108100005f011ff0b818113002412f60000a806c8329bfd0e01→
+CMGS: 95
OK
-
```

PDU形式文字列は次の部分から構成されます。

- o **0891**
- 。 SMSC番号文字列:この文字列は、次の手順で取得されます。
  - 数値文字列の末尾にFを追加します。
  - 2文字ごとにスワップします。
- **11ff0b**
- 。 宛先番号タイプ81は国内番号で、91は国際番号です。

- 。 Destination phone number string:この文字列は次の手順で取得されます。
  - 数値文字列の末尾にFを追加します。
  - 2文字ごとにスワップします。
- o **00**
- 言語コード08は中国語で、00は英語です。
- o **a8**
- メッセージ長(バイト単位)この例では、メッセージHello!は6バイトを使用します。
- この例では、Messageは4f60597d0021(Hello!のコード)。

#### qvdm.confファイルのLogLevelを変更します。

モデムが正常に動作している場合は、\server\conf内のqvdm.confファイルのLogLevelを変更します。 iMCインストールパスのディレクトリ:LogLevel=DEBUG。

#### アラーム通知設定が正しいことを確認します。

- 1. 端末エミュレーションプログラムをクローズし、アラーム処理を開始または再起動します。iMCアラーム処理を開始または再起動する手順は、次のとおりです。
  - a. iMCにログインし、Intelligent Deployment Monitoring Agentに移動します。
  - **b.** Processタブをクリックします。
  - c. imcfaultdm.exeプロセスを右クリックし、ショートカットメニューからStart Processを選択します。

?Help

- Systemタブをクリックし、ナビゲーションツリーからSystem Configuration > SMSC Settingsの順に 選択して、SMSC Configurationページにアクセスします。
- 3. SMSC項目のAddまたはModifyアイコンをクリックします。

#### 図36 SMSCの変更

🕞 System > SMSC Settings > Modify SMSC

SMSC Name	Alarm Management
Connect Using *	COM1 -
Baudrate (bps) *	115200 🗸
Country Code *	86
SMSC Number *	13800100500

- 4. モデムの設定と同じになるように設定します。
- 5. Alarmタブをクリックし、ナビゲーションツリーからAlarm Settings > Alarm Notificationを選択して、 アラーム通知および転送管理ページを表示します。

#### 図37 アラーム通知

ld Refresh			Config	gurel	Mail Se
Mail Notification					
			Т	Fotal I	tems: 0.
Rule Name	Destination Mail Address	Status	Modif C	ору	Delete
No match found.					
d Refresh Export Message Notification				Confi	igure S
			T	lotal I	tems: 0.
Rule Name	Mobile Phone Number	Status	Modif C	ору	Delete
No match found.					
d Refresh Alarm Forwarding					
d Refresh Alarm Forwarding			Ţ	Fotal I	tems: 0.
d Refresh Alarm Forwarding Rule Name	Destination Address/Port	Status	T Modif C	Fotal I	tems: 0. Delete

6. ショートメッセージ通知の設定を正しく構成します。

ショートメッセージ通知設定がすでに構成されている場合は、ルールのModifyアイコンをクリックして、ルール名以外の設定を変更します(既存のルールのルール名は変更できません)。 ショートメッセージ通知設定が設定されていない場合は、次のように設定を追加します。

- a. Addをクリックします。
- **b.** 次の設定を行います。
  - Rule name ルール名を入力します。
  - Telephone Number ショートメッセージを受信した電話機の番号を電話番号リストに追加します。
  - Concerned Alarm Levels 関連するアラームレベルを選択します。モデムのパ フォーマンスを考慮して、選択するレベルが多すぎないようにしてください。
  - Concerned Devices 関連するデバイスを選択します。All Devicesを選択するか、iMCプ ラットフォームからデバイスを選択できます。
  - Connected Alarms 関連するアラームを選択します。すべてのアラームを得るにはAll Alarmsを選択します。
  - Time Ranges システムがショートメッセージ通知を送信する時間範囲を選択します。
- **c.** OKをクリックします。

# アラーム分析時にiMCがルートアラームを特定できない

### 症状

iMCでは、デバイスから生成されたすべてのアラームからルートアラームを正しく分析および検出できません。

# ソリューション

次のような理由が考えられます。

- 現在のアラームが存在するデバイスと、アラームソースが存在するデバイスは直接接続されていません。
- アクセスデバイスまたはコアデバイスが設定されていないか、正しく設定されていません。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1. アラームを生成する2つのデバイス間にリンクが存在するかどうかを確認します。
  - a. Resourceタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーから、View Management > Network Topologyを選択します。
  - c. 2つのデバイスを見つけ、それらの間にリンクが存在するかどうかを確認します。
- 2. アクセスデバイスおよびコアデバイスを設定します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーで、Alarm Settings > Access and Core Deviceを選択します。
  - c. Access Device領域とCore Device領域でAddをクリックして、アクセスデバイスとコアデバイスを それぞれ追加します。

#### 図38 アクセスおよびコアデバイス

🔁 Access and Core Device

The Add to I	My F	avorites	? Help
--------------	------	----------	--------

Add Resume System Calculation			
Fotal Items: 0.			
Device Name	Device Type	Device IP	Delete
No readsh found			
No match found.			
core Device			
Add Delete			
Add Delete			

- 3. アクセスデバイスおよびコアデバイスを変更します。
  - a. ネットワークトポロジを分析して、適切なアクセスデバイスとコアデバイスを特定します。
  - **b.** Alarmタブをクリックします。

- **c.** ナビゲーションツリーで、Alarm Settings > Access and Core Deviceを選択します。
- d. Access Device and Core Deviceで既存のデバイスのDeleteアイコンをクリックします。 葡 領域で指定します。
- e. Access Device領域とCore Device領域でAddをクリックして、それぞれ正しいアクセスデバイス とコアデバイスを追加します。

#### 図39 アクセスおよびコアデバイスの追加

**G** Access and Core Device

rate and to My Favorites 🕐 Help

Add Resume System Calculation			
Fotal Items: 1.			
Device Name	Device Type	Device IP	Delete
Core_RT(192.168.0.1)	Routers	192.168.0.1	â
Add Delete			
Total Items: 1.			
Total Items: 1.  Device Name	Device Type	Device IP	Delete

# iMCが予期されたアラームを受信しない

### 症状

デバイスがトラップを送信した後、予期されたアラームはiMCに表示されません。

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- iMCが予想されるメモリーのアップ/ダウンアラームを受信しない場合は、"iMCが予想されるメ モリーのアップ/ダウンアラームを受信しない"を参照してください。
- ユーザー定義のトラップフィルタ規則によって、トラップが除外されます。
- トラップはiMCで定義されていません。不明なトラップフィルタ規則によってトラップが除外されます。
- トラップは、特定の間隔で複数回送信されます。重複トラップフィルタルールにより、トラップが除外 されます。
- トラップは、リンクステータス変更トラップなどの短い間隔で変更および復元されます。断続的なトラップ分析ルールにより、トラップが除外されます。
- トラップを送信するデバイスはiMCに追加されません。iMCルールにないデバイスのトラップフィルタによって、トラップが除外されます。または、デバイスがiMCで管理外の状態にあるため、トラップがアラームにエスカレーションされません。
- iMCはトラップを受信しますが、対応するTrap-to-Alarmルールが存在しないか、無効になってい

ます。この問題を解決するには、管理者としてiMCにログインし、次のタスクを実行します。

- 1. "iMCが予期されるメモリーのアップ/ダウンアラームを受信しない"のソリューションを参照してください。
- 2. ユーザー定義のトラップフィルタ規則を確認します。

- a. Alarmをクリックします。
- b. ナビゲーションツリーで、Trap Management > Filtering Trapを選択します。ユーザー定義のト ラップフィルタルールによってトラップが除外されるかどうかを確認します。除外される場合は、 設定を削除または変更します。
- 3. トラップ定義をチェックします。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - b. ナビゲーションツリーで、Trap Management > Trap Definitionを選択します。
  - c. トラップが定義されているかどうかを確認します。定義されていない場合は、Addをクリックしてトラップを定義します。
- 4. 重複トラップフィルタ規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - b. ナビゲーションツリーで、Trap Management > Filtering Trapを選択します。
  - c. 重複トラップフィルタルールのLength of Time Windowの値をチェックします。時間範囲内でトラップが複数回送信されるかどうかをチェックします。複数回送信される場合は、 Unfiltered Duplicated Trapsフィールドにトラップを追加します。
- 5. 断続トラップ分析規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - b. ナビゲーションツリーで、Trap Management > Filtering Trapを選択します。
  - c. Length of Time Window値およびトラップリストを確認します。たとえば、リンクステータス変更ト ラップがあるとします。トラップがリストにあり、リンクの状態が構成された時間範囲内で変更およ び復元される場合は、設定を変更または削除します。
- 6. iMCでデバイスを問い合せます。デバイスが管理用にiMCに追加されていることを確認します。
- 7. トラップからアラームへの規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーで、Trap Management > Trap to Alarm選択します。
  - c. トラップOIDによってトラップからアラームへの規則を問い合せます。トラップのトラップからアラームへの規則が存在し、イネーブルになっているかどうかを確認します。
  - **d.** Trap-to-Alarm規則が存在しない場合は、Addをクリックして、トラップのTrap-to-Alarm規則を追加します。
  - e. Trap-to-Alarmルールがディセーブルの場合は、そのルールをイネーブルにします。

# iMCが予想されるメモリーのアップ/ダウンアラームを 受信しない

### 症状

メモリーの状態が変化しても、iMCはメモリーのアップ/ダウンアラームを受信しません。

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- iMCは、メモリーのアップ/ダウンアラームをフィルタリングします。
- ユーザー定義のトラップフィルタ規則は、メモリーのトラップを除外します。

- トラップは、特定の間隔で複数回送信されます。重複トラップフィルタルールにより、トラップが除外 されます。
- メモリーの状態は短い間隔で変化し、リストアされます。断続的なトラップ分析ルールにより、メモリーのアップ/ダウントラップが除外されます。
- トラップを送信するデバイスはiMCに追加されません。iMCルールに含まれないデバイスのトラップフィルタによって、トラップが除外されます。または、デバイスがiMCでアンマネージド状態であるため、 トラップがアラームにエスカレーションされません。iMCはトラップを受信しますが、対応するTrap-to-Alarmルールはディセーブルです。

この問題を解決するには、管理者としてiMCにログインし、次のタスクを実行します。

- 1. iMCシステム設定を確認します。
  - a. Systemタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーから、System Configuration > System Settingsを選択します。
  - c. メモリーのアップ/ダウンアラームフィルタの設定がメモリーに影響するかどうかを確認します。 影響する場合は、設定を変更します。
- 2. ユーザー定義のトラップフィルタ規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーで、Trap Management > Filtering Trapを選択します。
  - c. アップ/ダウントラップグループによって実行されるユーザー定義のトラップフィルタルールのメ モリーリストにメモリーがあるかどうかを確認します。ある場合は、設定を削除または変更しま す。
- 3. 重複トラップフィルタ規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - b. ナビゲーションツリーで、Trap Management > Filtering Trapを選択します。
  - c. 重複トラップフィルタルールのLength of Time Windowの値をチェックします。時間範囲内 でトラップが複数回送信されるかどうかをチェックします。複数回送信される場合は、 Duplicate Trap Filterフィールドにトラップを追加します。
- 4. 断続トラップ解析規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーで、Trap Management > Filtering Trapを選択します。
  - c. Intermittent Trap Analyze規則のLength of Time Windowの値とトラップリストを確認します。 メモリーのアップ/ダウントラップがリストにあり、メモリーの状態が時間範囲内で変更および復元 される場合は、設定を変更または削除します。
- 5. iMCでデバイスを問い合せます。デバイスが管理用にiMCに追加されていることを確認します。
- 6. トラップからアラームへの規則を確認します。
  - a. Alarmタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーで、Trap Management > Trap to Alarmを選択します。
  - c. NMSリソースおよびSNMPルールが有効になっていることを確認します。メモリーのアップ/ダウントラップは、このルールが有効な場合にのみアラームにエスカレートされます。

iMC ICCのトラブルシューティング

次の情報は、iMC ICCのトラブルシューティングガイダンスを提供します。

# デバイスソフトウェアを導入、リストア、インポートするためのデバイスを追加できない

# 症状

デバイスソフトウェアを配布、リストアまたはインポートするためにデバイスを追加できません。ソフトウェアの 配布、リストアまたはインポート用にデバイスを選択すると、次のページでシステムが停止します。



#### 図40 データの保存

# ソリューション

考えられる理由は、iMCがデバイスとは異なる読み取り専用コミュニティストリングを使用している

ためです。この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1. 管理者としてiMCにログインし、Resourceタブをクリックします。
- ナビゲーションツリーからView Management > Device Viewを選択して、デバイスビューを入力します。
   となります。
- 3. Device Listでデバイスのラベルをクリックして、Device Detailsページを表示します。
- 4. 右側のペインで、Configure > Modify SNMP Settingsをクリックします。

- 5. 読み取り専用コミュニティストリングを、デバイスによって使用される読み取り専用コミュニティストリン グと同じになるように変更します。
- 6. OKをクリックします。

#### 図41 SNMPパラメータの変更

●Edit SNMP Parameters ○	Select an Existing Template
Parameter Type *	SNMPv2c 🗸
Read-Only Community String	
Read-Write Community String	
Timeout (1-60 seconds) *	4
Retries (1-20) *	3
Tes	t OK Cancel

# デバイスソフトウェアの転送にTFTPを使用できません でした。

### 症状

ソフトウェアの展開、復元、またはインポート操作中に、TFTPを使用してデバイスソフトウェアを転送できませんでした。

### ソリューション

考えられる理由は、iMCがデバイスとは異なる読み取り専用コミュニティストリングを使用しているためです。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1. Resourceタブをクリックします。
- **2.** ナビゲーショツリーからView Management > Device viewを選択して、デバイスビューを入力します。 となります。
- 3. Device Listでデバイスのラベルをクリックして、Device Detailsページを表示します。
- 4. 右側のペインで、Configure > Modify SNMP Settingsをクリックします。
- 5. read-onlyコミュニティストリングを、デバイスによって使用されるread-onlyコミュニティストリングと同じになるように変更します。
- 6. OKをクリックします。

図42 SNMPパラメータの変更

●Edit SNMP Parameters ○S	Select an Existing Template
Parameter Type *	SNMPv2c 🔹
Read-Only Community String	
Read-Write Community String	
Timeout (1-60 seconds) *	4
Retries (1-20) *	3
Tes	t OK Cancel

# デバイス構成の手動バックアップに失敗しました

症状

デバイス構成の手動バックアップが失敗し、デバイスログイン失敗のエラーメッセージが表示された

### ソリューション

デバイス構成の手動バックアップでは、ICCは最初にSNMPを使用しようとします。SNMP方式が使用できない場合、ICCはバックアップのためにデバイスのCLIにログインしようとします。次のいずれかのエラーが発生した場合、ICCはデバイスのCLIにログインできません。

- ファイル転送プロトコルは、CLIログイン方式をサポートしていません。
- 一部のログイン設定が正しくありません。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

正しいログイン方法を選択し、正しいログイン設定を構成します。

- ファイル転送プロトコルがTFTPまたはFTPの場合は、Telnetを選択します。
- ファイル転送プロトコルがSFTPまたはSCPの場合は、SSHを選択します。

次の例では、TFTPが使用されています。Telnetを選択し、Telnet設定を構成する必要があります。

- 1. 管理者としてIMCにログインします。
- 2. ナビゲーションツリーでService > Configuration Center > Optionsをクリックします。
- 3. デフォルトの転送モードとしてTFTPを選択し、OKをクリックします。

#### 図43 ファイル転送モードの設定

vice Capability Set	File Transfer Mode	Backup Policy	VPN Instance		
Default Transfer Mode					
💡 iMC will forcely en:	able SFTP/TFTP server if i	t is not enabled on H	HP E-series devices. Please	revert the changes back m	anually if required.
● TFTP					
FTP					
SFTP (Make sure t	he SFTP server is enabled	on the device, and	correct SSH parameters ar	e configured for the device	in iMC.)
OSCP (Make sure th	e SCP server is enabled o	n the device, and co	rrect SSH parameters are o	onfigured for the device in	iMC.)
Enable FTP Trand	er Mode				
	ci riode				
🦞 Please install third	-party FTP server softwa	re at iMC, and set se	rver\tmp under the iMC in:	stallation directory as the r	oot directory of the FTP service.
FTP User Name					
FTP Password					
Single Device Transfer	Mode				
💡 All the devices tha	t are not configured sepa	rately with the file f	transfer mode adopt the de	efault transfer mode.	
Select Device	Set Mode Cancel Mo	de			
Device Name	2		Device Model	IP Address	Transfer Mode
No match found.					
Total Items: 0.					
i otaritembroi					

- **4.** Service > Configuration Center > Configuration Centerをクリックします。Device Detailsペ ージを表示するためにデバイスのラベルをクリックします。
- 5. ログイン方法をTelnetに変更します。右側のペインで、Configure > Modify Telnet Settings をクリックして、正しいTelnet設定を行います。

Device Det	ails							Action
Device La Device S IP Addres Mask sysOID	abel tatus ss	RDSI02-S5820v2 Major 192.168.40.101 255.255.255.0 1.3.6.1.4.1.255	[Modify] 192.168.1.135/imc/res	System Name Contact Location Runtime /paratemplate/tenet/seld	RDSI02-S5820v2	<pre> P[Modify] y] 39 minute(s) </pre>	13 second(s) 0	Configure Modify Device Label Modify System Group Attribute Modify SNMP Settings Modify Telnet Settings
Device M Device C System I Maintena	lodel ategory Descriptio ance Tag Monitoring	H3C S5820V2- Switches P H3C Comwar Hangzhou H3 No Maintenanc Trap Destir	) 192.168.1.135/mc/res/pd Edit Telnet Parame Authentication Mode Username * Password	vratemplate/telnet/select.jsf?be ters Select an Existing T Username + Password admin	anName=resDeviceBean emplate		c) 2004-2014	Modify NETCONF Settings Modify SSH Settings Modify SOAP/HTTP Settings Modify SOAP/HTTP Settings Modify PowerShell Settings Modify WMI Settings Modify WMI Settings Modify Ping Parameters Modify Veb Manager Parametete Configure Across Daviso
ecent 10	unrecovere	ed alarms	Timeout (1-60 seconds) *	4 Test OK Ca	ncel		Ercustomize	+++ ACL Configuration
Level Amajor	Descrip	tion "M-GigabitEthe		1				Configuration Center VLAN Management Device Management
				0	Critical Major	Minor	Warning	

6. ICC上のデバイス構成を手動で再度バックアップします。操作は正常に行われます。

# FTPを使用してデバイス構成をバックアップできません でした

症状

FTPを使用してデバイス構成をバックアップできませんでした。FTPサービスが使用不可であることを示す エラーメッセージが表示されます。

FTPサーバーが開始されていません。

図44 Telnetパラメータの設定

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- FTPサーバーはインストールされていません。
- FTPサーバーはイネーブルになっていません。
- FTPサーバーは、ループバックアドレス127.0.0.1をサポートするように設定されていません。

この問題を解決するには、必要に応じて次の方法を使用します。

- FTPサーバーをインストールします。
- FTPサーバーをイネーブルにします。
- ループバックアドレス127.0.0.1をサポートするようにFTPサーバーを設定します。

# デバイスソフトウェアの転送にFTPを使用できません でした。

## 症状

デバイスソフトウェアをiMCに転送するためにFTPを使用できませんでした。

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- ICCに保存されているFTPユーザー名またはパスワードが正しくありません。
- FTPディレクトリ内に同じファイル名を使用する読み取り専用ファイルがあります。
- FTPユーザーには、FTPディレクトリで操作を実行する権限がありません。
- iMCサーバーにはファイアウォールがインストールされています。

この問題を解決するには、必要に応じて次の方法を使用します。

- ICCで、FTPユーザー名とパスワードを変更します。
  - a. 管理者としてIMCにログインし、Serviceタブをクリックします。
  - **b.** ナビゲーションツリーからConfiguration Center > Optionsを選択します。
  - c. FTPのユーザー名とパスワードを変更します。

#### 図45 ファイル転送モードの設定

efault Transfer Mode				
iMC will forcely enable SFTP/TFTP	server if it is not enabled on HP E	-series devices. Please revert the	changes back manually if require	d.
TETP				
● FTP				
SFTP (Make sure the SFTP server is	s enabled on the device, and corr	ect SSH parameters are configure	ed for the device in iMC.)	
SCP (Make sure the SCP server is e	enabled on the device, and correc	ct SSH parameters are configured	for the device in iMC.)	
Enable FTP Transfer Mode				
Please install third-party FTP serve	r software at iMC, and set server\	tmp under the iMC installation di	rectory as the root directory of th	e FTP service.
TP User Name *	admin			
TP Password *				
ingle Device Transfer Mode All the devices that are not configu	ured separately with the file trans	fer mode adopt the default transf	fer mode.	
Select Device Set Mode Car		Device Model	IP Address	Transfer Mode
Select Device Set Mode Car				
Select Device         Set Mode         Car           Device Name         No match found.         Image: Car         Image: Car				

- デバイス上で、同じファイル名を使用するread-onlyファイルを削除します。
- デバイス上で、FTPユーザーに操作の実行を許可するか、操作を実行する権限を持つFTPユーザ ーカウントを使用します。

• IMCサーバーで、FTPアクセスを許可するようにファイアウォールを設定します。

# SFTPを使用してデバイスソフトウェアを転送できませんでした

症状

ソフトウェアの展開、復元、またはインポート操作中にデバイスソフトウェアを転送するためにSFTPを使用 できませんでした。

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- デバイスでSSHサービスがイネーブルになっていません。
- デバイス上のSSHサービス設定が正しくありません。

この問題を解決するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- デバイスにログインし、デバイスでSSHサービスをイネーブルにします。
- デバイスにログインして、SSHサービス設定を変更します。

# SCPを使用して装置構成をバックアップすることに関 するエラーメッセージ

症状

SCPを使用したデバイスコンフィギュレーションバックアップ操作は成功しましたが、結果の詳細ページに、 伝送プロトコルがサポートされていないことが示されました。

#### 図46 伝送プロトコルはサポートされていない

nfiguration	n File Backup F	Result							
			Device confi	guration files m	anually backed up. Total: 1, backed	up: 1, failures:	0.		
Device Na	ame	Device Model	File Type	Time	Result	Confi	guration File Nar	ne	Detai
				2013-11- 01 17:27:07	Back up configuration files. Total running files: 1, startup files: 1.	: 2,			
ab-1(192	.168.12.200)	H3C S5500-28C-PWR-	El Startup	2013-11- 01 17:27:06	<ul> <li>Configuration backup succeeded</li> </ul>	I. 192.1	68.12.200_startup	5_20131101172700.cfg	J.
ab-1(192	2.168.12.200)	H3C S5500-28C-PWR-	El Running	2013-11- 01 17:27:06	<ul> <li>Configuration backup succeeded</li> </ul>	I. 192.1	68.12.200_runnin	g_20131101172653.cfg	ilo,
				2013-11- 01 17:26:42	<ul> <li>Starting to backup configuration</li> </ul>	files.			
	http://192.16	8.1.17/imc/icc/taskmng/vie	wTaskResultDetailFa	ct.jsf?queryType	=2&jobId=42&devId=115 - Windows Ir	nternet Explorer			
	http://192.16	58.1.17/imc/icc/taskmng/vie	wTaskResultDetailFa	ct.jst?queryType:	=28jobId=428de+fd=1158tfileType=18	&decodelso=tru	e		
	Device Name	e: Lab-1(192.168.12.200)		-					
	In days	Description	Result	Suggest	ion	Begin Time	Finish Time		
	Index	Description		00					
	1	Initialize task parameters.	Succeeded.			2013-11-01 17:26:43	2013-11-01 17:26:44		
	1 2	Initialize task parameters. Back up device startup configuratio	Succeeded. Transmission protoc not supported.	ol Please co	orrect the file transmission protocol of e.	2013-11-01 17:26:43 2013-11-01 17:26:45	2013-11-01 17:26:44 2013-11-01 17:26:50		
	1 2 3	Initialize task parameters. Back up device startup configuratio Initialize redo task parameters.	Succeeded. Transmission protoconot not supported. Succeeded.	ol Please co	orrect the file transmission protocol of e.	2013-11-01 17:26:43 2013-11-01 17:26:45 2013-11-01 17:26:50	2013-11-01 17:26:44 2013-11-01 17:26:50 2013-11-01 17:26:51		

## ソリューション

iMCがSCPをサポートするコードを提供しない場合は、自動的にサードパーティスクリプトが使用されます。 結果詳細ページのエラーメッセージには、iMCがサードパーティスクリプトを使用したことが示されます。

この問題は通常の使用には影響しません。問題を解決するための操作は必要ありません。

# iMC NetAssetのトラブルシューティング

次の情報は、iMCネットワーク資産管理のトラブルシューティング情報を提供します。

# iMCはネットワーク内のスタックデバイスを識別できま せんでした。

# 症状

スタックデバイスがiMCに追加された後、iMCはそれらをデバイス詳細ページでスタックデバイスとして識別できなくなり、それらのアイコンはネットワークトポロジページのスタックデバイスアイコンではなくなります。アイコンをダブルクリックしてもスタックデバイスのトポロジを開くことはできません。

## ソリューション

考えられる原因は次のとおりです。

- network asset moduleがiMCプラットフォームにインストールされていないため、デバイスの資産情報をiMCに追加できません。
- スタックデバイスのエンティティ情報が多すぎるため、iMCがエンティティ情報を読み取ってiMCに 追加するには時間がかかります。
- network asset moduleのOptionsページで、iMCプラットフォームにデバイスを追加するときにデバイスをネットワークアセットに追加するAdd devices to Network Assets when adding them to the iMC platformオプションはNoになります。
- デバイスにはエンティティMIB実装エラーがあります。たとえば、エンティティMIBの一部のフィールド に認識されない文字が含まれているなどです。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- iMCプラットフォームにnetwork assetモジュールをインストールし、新しいデバイスのasset情報 をiMCに読み込みます。
- しばらく待って最新のデバイス情報を表示した後、デバイスの詳細ページおよびネットワークトポロジページを更新します。
- Add devices to Network Assets when adding them to the iMc platformオプションをYesにし、デバイス詳細ページのデバイス情報と同期させます。そして、しばらく待って最新のデバイス情報を表示した後、デバイスの詳細ページとネットワークトポロジページを更新します。
- デバイスの正規のソフトウェアバージョンを使用します。

# iMC Perfmのトラブルシューティング

次の情報は、iMCパフォーマンス管理のトラブルシューティングガイダンスを示します。

# CPU使用率を監視するためにF5デバイスインスタンス にデータが表示されない

# 症状

iMCプラットフォーム7.0(E0102)以前のバージョンでは、パフォーマンス管理モジュールは、F5デバイスの 既存のCPUモニターリングインスタンスからデータを収集できません。

### ソリューション

iMCプラットフォーム7.0(E0102L01)以降のバージョンでは計算式が変更されるため、Performance Managementモジュールは、F5デバイスの既存のCPU監視インスタンスからデータを収集できません。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. F5デバイスの既存のCPU監視インスタンスを削除します。
- 2. CPU使用率を監視するために、F5デバイスの新しいインスタンスを追加します。

# デバイスパフォーマンスモニターにデータがない

症状

特定のデバイスのリアルタイム監視ページにはデータがありません。 図47 監視情報なし

#### Last Hour | Today | Yesterday | This Week | Last Week | This Month | Last Month | This Year | Last Year | Custom Device Availability Device Unreachability(%) C C Unreachability Average Response Time 100 75 \* 50 25 No data available. 0 Thresholds 18:45 18:00 18:15 18:30 Max. Value Min. Value Average Value 0.000 0.000 0.000 Device Response Time(ms) C No data SUU Max. Value Min. Value Average Value

### ソリューション

考えられる原因は、デバイス上でハードウェアが変更されたことです。次に例を示します。

- カードが取り外されたか、新しいカードが挿入されました。
- スタックデバイスのメンバが変更されました。

この問題を解決するには、監視するデバイス上のインスタンスを更新します。

- 1. Resourceタブをクリックします。
- 2. ナビゲーションツリーから、Performance Management > Monitoring Settingsを選択します。

#### 図48 監視の設定

Resource > S	Monitoring Last S ettings	tatistical Time: 2016-04-20 17:30:00 🕅	Re-collect 🚾Ove	Add to My Fav	itics ReportV2 orites ⑦Help
fotal number fotal number performance	umber of index instances monitored: 14 Total collecting frequency (times/hour): 168 Tota umber of instances managed by mance management: 14 Total collecting frequency of the instance Tota (times/hour): 168 management insta				units: 14 units of the rmance
Add Monito	r Cancel Monitor Modify I	ndex Refresh <b>v</b> Save			Query
		0	nly Display Monito	ored Devices Switch to	o Instance List
	Device Name	Device Model	Instances	Operation	Data
Þ	12DC-CN-X64(192.168.7.15	) ICMP	2 Add	d Cancel Modify Inde	ex 📈
Þ	172.19.254.242(172.19.254.2	42) ICMP	2 Ado	Cancel Modify Inde	ex 🔯
Þ	172.31.1.5(172.31.1.5)	ICMP	2 Add	d Cancel Modify Inde	ex 🔯
	192.168.7.1(192.168.7.1)	H3C \$5820V2-52Q	4 Add	Cancel Modify Inde	ex 📈
Þ	192.168.8.23(192.168.8.23)	ICMP	2 Add	Cancel Modify Inde	ex 🔯
Þ	192.168.8.25(192.168.8.25)	ICMP	2 Add	Cancel Modify Inde	ex 🚧

**3.** IPアドレスが192.168.7.1のデバイスの横にあるAddをクリックします。Monitoring Settings-Add Monitorページが開きます。

Monitoring Devic	ce OMonitoring Instance			
Select Index				
Add Dele	te All			
Total Items: 0.				
Name	Index Group	Configure	Delete	
No match found	d.			
Select Device				
Add Dele	te All			
Total Items: 1.				
		Device Type	Device IP	Delete
Device		1120 0502010 520	192.168.7.1	â
Device 192.168.7.1		H3C \$5820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settin	ngs	H3C 55820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settin	ngs	H3C 55820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settli All interfaces Up interface	ngs s	H3C 55820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settin All interfaces Up interface Monitor Phy	ngs s s sical Interfaces only	H3C 55820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settin All interfaces Up interface Monitor Phy Up physical	ngs s s sical Interfaces only interfaces	H3C 55820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settin All interface Up interface Monitor Phy Up physical Meet these requ	ngs s s rsical Interfaces only interfaces uirements	H3C 55820V2-52Q		
Device 192.168.7.1 Monitoring Settin All interfaces Up interface Monitor Phy Up physical Meet these requ Meet these requ Interfaces Co Devices	ngs s scical Interfaces only interfaces uirements onnected to SNMP Interfaces	Connected to Servers	Connected to PCs	

#### 図49 監視設定モニターの追加

4. Select Index領域でAddをクリックし、監視するインデックスを選択します。

#### 図50 インデックスの選択



5. OKをクリックします。

Select Indexページが閉じます。

6. Refresh Instanceボックスを選択します。

#### 図51 リフレッシュインスタンスの選択

elect Index					
Add Delete All					
otal Items: 6.					
Name	Index Grou	up		Configure	Delete
CPU Usage	System-CPU Usage			z	Ē
Memory Usage	System-Me	emory Usage		*	Ê
IP Datagram Receiving Rate	System-De	vice Traffic		*	Ô
IP Datagram Forwarding Rate	System-De	vice Traffic		*	â
Response Time of Device	System-Device Defect		*	Ô	
Device Unreachability Proportion	System-De	vice Defect		2	Ê
and a second second second second					
Add Delete All otal Items: 1.					
Add Delete All otal Items: 1. Device		Device Type	Devic	e IP	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1		Device Type H3C S5820V2-52Q	Device 192.16	• IP	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1		Device Type H3C S5820V2-52Q	Device 192.16	• IP	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Ionitoring Settings		Device Type H3C S5820V2-52Q	Devic: 192.16	≥ IP   88.7.1	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 fonitoring Settings All interfaces Up interfaces		Device Type H3C S5820V2-52Q	Devic: 192.16	8.7.1	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Nonitoring Settings All interfaces Up interfaces Monitor Physical Interfaces only		Device Type H3C S5820V2-52Q	Devic: 192.16	■ IP I	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings All interfaces Up interfaces Monitor Physical Interfaces only Up physical interfaces		Device Type H3C S5820V2-52Q	Devic: 192.16	■ IP I	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings All interfaces Up interfaces Monitor Physical Interfaces only Up physical interfaces Meet these requirements		Device Type H3C S5820V2-52Q	Devic: 192.16	■ IP I 88.7.1	Delete

- 7. OKをクリックします。
- 8. 監視情報をリフレッシュします。

# 非メモリーインデックスのモニターの追加に失敗しまし た

# 症状

CPU使用率やメモリー使用率などの非メモリーインデックスのモニターを追加できませんでした。 IPアドレスが192.168.1.111のデバイスのモニターを追加できませんでした。IPアドレスが172.10.0.100の デバイスのモニターを追加すると、デバイスアクセス タイムアウト エラーメッセージが表示されました。

#### 図52 デバイスアクセス タイムアウト

Ionitoring Settings-Instance List		
Save as New View Save to Existed View Device Name	Result	
▲	😑 0	🔴 Failed
▲ CPU Usage	😑 O	🔴 Failed
A Memory Usage	• 0	Failed

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- iMCプラットフォームでは、デバイスと同じSNMP設定を使用しません。
- デバイスの負荷が大きすぎるため、デバイスはiMCからの要求メッセージにすぐに応答しません。
- デバイスは、特定のインデックスの監視をサポートしていません。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- SNMPパラメータを次のように変更します。
  - a. iMCにログインし、デバイスの詳細ページにアクセスします。
  - **b.** Actionメニューで、Configureをクリックし、Modify SNMP settingsを選択します。
  - c. 表示されるページでSNMPパラメータを変更します。

#### 図53 SNMPパラメータの編集

Parameter Type *	SNMPv2c	•
Read-Only Community String		C
Read-Write Community String		C
Timeout (1-60 seconds) *	4	
Retries (1-20) *	З	

- 後でデバイスの負荷が低下したときに再試行してください。
- 監視するインデックスの監視がデバイスでサポートされているかどうかを確認します。

# ディレクトリ共有時にデバイス監視データが消失

## 症状

管理者がiMCデータベースサーバー上のディレクトリを共有すると、デバイス監視データが消失します。 パフォーマンス管理モジュールには、次のログコンテンツがあります;

オペレーティングシステムエラーコード5(アクセス拒否)。

### ソリューション

iMCディレクトリが共有されると、SQL Serverサービス起動アカウントのアクセス権が変更されます。この 問題は通常、アカウントがNT AUTHORITY\NetworkServiceであり、共有ディレクトリが \$(iMc)\server\data\perfdmまたはその親パス\$(iMc)\server\data、\$(iMc)\server、または\$(iMc)です。 \$(iMc)はiMCのインストーパスです。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- SQL Serverサービスの起動アカウントとしてローカルアカウントを設定します。
- 共有フォルダの読み取り/書き込み権限をSQL Serverサービスの起動アカウントに付与します。

#### ローカルアカウントをSQL Serverサービスの起動アカウントとして構成する

- 1. iMCデータベースが存在するサーバーにログインします。
- 2. Startボタンをクリックし、All programs > Microsoft SQL Server2008R2 > Configuration Tools > SQL Server Configuration Managerを選択します。

#### 図54 SQL Server構成マネージャ

Sql Server Configuration Manager		
File Action View Help		
(= =) 🛃 🔢		
SQL Server Configuration Manager (Local)         SQL Server Services         SQL Server Network Configuration (32bit)         Image: SQL Native Client 10.0 Configuration (32bit)         Image: SQL Server Network Configuration         Image: SQL Server Network Configuration         Image: SQL Native Client 10.0 Configuration         Image: SQL Native Client 10.0 Configuration	Items SQL Server Services SQL Server Network Configuration SQL Server Network Configuration SQL Server Network Configuration SQL Native Client 10.0 Configuration	

- 3. ナビゲーションツリーで、SQL Server Servicesをクリックします。
- **4.** 作業領域でSQL Server(MSSQLSERVER)を右クリックし、ショートカットメニューからPropertiesを 選択します。

#### 図55 プロパティの構成

👼 Sql Server Configuration Manag	er					_ 🗆 ×
File Action View Help						
🗢 🔿 🖄 🗐 🗟 😰 👀	• •					
Image: Solution of the service of	I)  O SQL Server Integration Ser SQL Server Integration Ser SQL Server (MSSQLSERVER) SQL Server Browser SQL Server Agent (MSSQLS)	State Running Running Stopped Stopped	Start Mode       Automatic       Manual       Start       Stop       Pause       Resume       Restart       Properties       Help	Log On As LocalSystem NT AUTHORITY/LOC LocalSystem NT AUTHORITY/LOC LocalSystem	Process ID 1452 2580 1680 0 0	Service Type
x I						

- 5. Log onタブで、Built-in AccountリストからLocal Systemを選択します。
- 6. OKをクリックします。

#### ☑ 56 Select Local System

og on as:		
<ul> <li>Built-in account:</li> </ul>		
Local System	<b></b>	[
C This account:		
Account Name:		Browse
Password:		
Confirm password:		-
	1	1
Service status:	Running	
Start	Stop Pause	Restart
		- St

#### SQL Serverサービスの起動アカウントに共有フォルダの読み取り/書き込み権限を付与する

- 1. iMCが実行されているサーバーにログインし、iMCインストールパスのディレクトリ\Server\data を開きます。
- 2. perfdmフォルダを右クリックし、ショートカットメニューのPropertiesを選択します。

⊖ 📕 + Res	ourceS (E:)    Program Files	iMC → server → data →	-	Search data		
ganize 🔻 🍃 Ope	n Include in library 🔻 Sł	nare with 🔻 New folder				
Favorites	Name *	Date modifi	ed	Туре	Size	
🧱 Desktop	📙 C	11/11/2013	7:28 PM	File folder		
🔝 Downloads	📕 cfgbak	11/11/2013	7:27 PM	File folder		
🖉 Recent Places	鷆 cmdline	11/11/2013	7:27 PM	File folder		
	〕 image	11/11/2013	7:27 PM	File folder		
	퉬 jobmgr	11/11/2013	7:27 PM	File folder		
Documents     Music	鷆 mpls	11/12/2013	6:55 PM	File folder		
	鷆 mvm	11/13/2013	1:10 AM	File folder		
Videos	📔 perfdm		16 AM	File folder		
	🌡 ssh	Open in new window	27 PM	File folder		
Computer	🍶 topo	Share with	27 PM	File folder		
🏭 08R2-EN-x64	退 vdl	Restore previous versions	27 PM	File folder		
ResourceS (E:	🍌 zh	Include in library	27 PM	File folder		
	readme	Send to	▶ 27 PM	Text Document	1 KB	
Network		Cut				
		Сору				
	-	Paste				
		Create shortcut				
		Rename				
		Properties	_			

図57 プロパティの構成

**3.** Securityタブで、CREATOR OWNER、UsersおよびAdministratorsがGroup or user namesにあること を確認しなさい。一覧に表示されていない場合は、Editをクリックして追加します。

図58 グループ名またはユーザー名の構成

Object name: E:\Program Hie Group or user names:	s\iMC\server\data`	perfdm
CREATOR OWNER SYSTEM Administrators (08-SQL8-X6 Users (08-SQL8-X64-130\l	64-130\Administrato Jsers)	(ar
fo change permissions, click Ed	lit.	Edit
emissions for Users	Allow	Deny
Full control		-
Modify		
Read & execute	~	
List folder contents	~	
Read	~	
Write		
or special permissions or advar lick Advanced.	nced settings,	Advanced

# メモリーインデックスのモニターの追加に失敗しました

症状

メモリー受信レートやメモリー送信レートなどのメモリーインデックスのモニターを追加できませんでした。 IPアドレスが90.16.0.5であるデバイスSR11-11上のメモリー転送レートのモニターを追加できませんでした。 図59 メモリー転送レートのモニターの追加に失敗しました

	Device addition has completed.		
Monitoring Settings-In	tance List		
Save as New View	Save to Existed View		
		Result	
Device Name			
Device Name	.1) 0	🔴 Device	e access timeout

## ソリューション

次のような理由が考えられます。

- iMCプラットフォームでは、デバイスと同じSNMP設定を使用しません。
- デバイスの負荷が大きすぎるため、デバイスはiMCからの要求メッセージにすぐに応答しません。
- メモリーがモニターリング設定の要件を満たしていません。
- デバイスは、特定のインデックスの監視をサポートしていません。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- SNMPパラメータを次のように変更します。
  - a. iMCにログインし、デバイスの詳細ページにアクセスします。
  - b. Actionメニューで、Configureをクリックし、Modify SNMP Settingsを選択します。
  - c. 表示されるページでSNMPパラメータを変更します。

図60 SNMP	ペラメータ	の編集
----------	-------	-----

●Edit SNMP Parameters ○Seleo	ct an Existing Template	
Parameter Type *	SNMPv2c 🗸	
Read-Only Community String	•••••	?
Read-Write Community String		?
Timeout (1-60 seconds) *	4	
Retries (1-20) *	3	
Test	OK Cancel	

- 後でデバイスの負荷が低下したときに再試行してください。
- 次のいずれかの操作を行います。
  - デバイスメモリーがモニターリング設定の要件を満たしているかどうかを確認します。デフォルトでは、iMCはメモリーを監視し、メモリーが接続されるデバイスはSNMPデバイス(スイッチおよび ルータ)またはサーバーである必要があります。

#### 図61 監視の設定

Monitoring Settings-Add Monitor			R	efresh Instance
Monitoring Device      Monitoring Instance				
Select Index				
Add Delete All				
Total Items: 1.				
Name	Index Group		Configure	Delete
Interface Transmitting Rate	System-Interfac	e Statistics	*	<b></b>
Select Device Add Delete All Total Items: 1.				
Device	D	evice Type	Device IP	Delete
192.168.7.1	H	3C S5820V2-52Q	192.168.7.1	<b>İ</b>
Monitoring Settings <ul> <li>All interfaces</li> <li>Up interfaces</li> <li>Monitor Physical Interfaces only</li> <li>Up physical interfaces</li> <li>Meet these requirements</li> <li>Interfaces Connected to SNMP Devices</li> </ul>	Connected to Se	ervers 🔲 Interfaces Connected	I to PCs	
ОК	Cancel			

Monitoring Instanceを選択します。iMCでは、監視インスタンスの作成時に監視設定(メモリーおよびメモリーが接続されているデバイス)が無視されます。

#### 図62 インスタンスの監視

itoring Device  Monitoring Instance ct Index			
ct Index			
dd Delete All			
me	Index Group	Configure	Delete
erface Transmitting Rate	System-Interface Statistics	*	盦
ct Instances			
alact Dalata All			
192.168.7.1(192.168.7.1)	Devico Namo	â	
Interface Transmitting Rate			
	K Canal		

• 監視するインデックスの監視がデバイスでサポートされているかどうかを確認します。

# モニターの追加直後にモニターデータを表示できませ んでした。

# 症状

モニターを追加すると、iMCプラットフォームはモニターリングデータをすぐに表示できず、しばらくしてから モニターリングデータを表示します。

たとえば、IPアドレスが192.168.7.1のデバイスに対してInterface Transmitting Rateのモニターを追加した場合、iMCプラットフォームでは、Interface Transmitting Rateのモニターリングデータページにそのモニターのデータは表示されません。

#### 図63 データなし

T					
		No data			
sd					
<u>م</u>					
■192.168.	7.1(192.168.7.1) Interfa	ce Transmitting Rate [interfa	ace:Ten-GigabitEthe	ernet1/0/2]	
		Max:			

### ソリューション

iMCでは、少なくとも2つの収集間隔で収集された2つのデータ間の差を計算することによって監視データが生成されるため、iMCでは、モニターの追加後に少なくとも2つのデータ収集間隔で監視データが表示されます。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 少なくとも2回のデータ収集間隔が経過したら再試行してください。
- データ収集間隔を変更することもできます。

データ収集間隔を変更する手順は、次のとおりです。

**1.** Access Monitorページにアクセスします。Interface Transmitting RateのConfigureアイコンをクリックします。

Interface Transmitting Rateの設定ページが開きます。

#### 図64 インデックスの構成

Select Index					
Add Delete All					
otal Items: 1.					
Name	Index	Group	Co	onfigure	Delete
Interface Transmitting Rate	System	m-Interface Statistics	4	6	Ô
elect Device					
Add Delete All					
Add Delete All otal Items: 1.					
Add Delete All Total Items: 1. Device		Device Type	Device	e IP	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1		Device Type H3C S5820V2-52Q	Device 192.16	• IP 8.7.1	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings		Device Type H3C S5820V2-52Q	<b>Device</b> 192.16	e IP 58.7.1	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings		Device Type H3C S5820V2-52Q	Device 192.16	∍ IP	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings All interfaces Up interfaces		Device Type H3C S5820V2-52Q	Device 192.16	∍ IP 8.7.1	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings All interfaces Up interfaces Monitor Physical Interfaces only		Device Type H3C S5820V2-52Q	<b>Device</b> 192.16	₽ IP 88.7.1	Delete
Add Delete All otal Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings All interfaces Up interfaces Monitor Physical Interfaces only Up physical interfaces		Device Type H3C S5820V2-52Q	<b>Device</b> 192.16	⊧ IP 8.7.1	Delete
Add Delete All Total Items: 1. Device 192.168.7.1 Monitoring Settings All interfaces Up interfaces Monitor Physical Interfaces only Up physical interfaces Meet these requirements		Device Type H3C S5820V2-52Q	Device 192.16	₽ IP 88.7.1	Delete

2. Global Index Settingを消去し、必要に応じてIntervalおよびその他のパラメータを変更します。OK をクリックします。

#### 図65間隔の構成

Interface Transmitting Rate	Global Index Settings		9			
	Threshold 1	✓ Enable		Threshold 2	Enable	
	Match Mode	2	•			
	Value 1 *	10.000	?	Value 1 *	50.000	?
	Measurement	Mbps	•	Measurement	Mbps	•
	Repeat Times *	3	?	Repe <mark>at</mark> Times *	3	?
	Alarm Level	Minor	•	Alarm Level	Major	*
	Interval (Sec.) *	300	1	1		

**3.** Interface Transmitting Rateのモニターリングデータページを更新し、モニターリングデータを表示します。

# パフォーマンス管理の監視データはCLIの出力とは異なる

## 症状

Performance Managementの監視データは、CLIの出力とは異なります。

### ソリューション

次のような理由が考えられます。

- パフォーマンス管理のデータ収集間隔(デフォルトでは5分)は、デバイスのデータ収集間隔とは異なります。
- モニターリングインデックスの場合、MIBには計算用の複数のアルゴリズムがあります。MIBで1つのアルゴリズムを選択することによって取得されるデバイスデータiMCは、CLI出力とは異なります。

この問題を解決するには、パフォーマンスパラメータを計算するための正しいアルゴリズムを見つけ、次の手順を実行してカスタムインデックスを追加します。

- 1. Resourceタブをクリックします。
- 2. ナビゲーションツリーからPerformance Management > Global Index Settingsを選択します。
- Add Custom Indexをクリックします。 デバイス設定に従ってパラメータを設定します。

#### 図66 カスタムインデックスの追加

Resource > Global Index Settings > Add Custom Index

np.			
1. Enter the type of the where 0 indicates a MII IP address, 4 indicates integer index and non- For example, [index1[2]	i index in the Index t 8 leaf node while 2 ir printable string, and hierarchical index; a JInterface:1:0] and [i	type field in the format o ndicates a non-leaf node 5 indicates MAC addres: dot "." is used to separa index1[2]:Frame:1:0].[inde	f [index1[0]2]:NAME:TYPE:LENGTH].[index2[0]2]:NAME:TYPE:LENGTH], ; in the TYPE field, 1 indicates integer, 2 indicates OID string, 3 indicates ;; Value in the LENGTH field indicates the index length, which is 0 for te length values of hierarchical indices; x2[2]:Slot1::0].[index3[2]:Wemory:1:0]
2. Enter the object ider OIDs for hierarchical in For example, 1.3.6.1.2.3	ntifier (OID) of the indices, and enter 0 if L.2.2.1.2 and 1.3.6.1.4	dex definition in the Inde no OID is provided. 4.1.2011.10.2.75.2.1.2.1.	ex Instance Label (Definition OID) field, use a colon ":" to separate the 6:0
3. Enter the MIB node "t" must be lowercase, The quotation mark ( For example, 1.3.6.1.2.: 1.3.6.1.2.1.11.1-1.3.6.1 (1.3.6.1.2.1.11.1-1.3.6.1)	to be monitored and indicating the query ) must be placed rig l.11.1 means to use .2.1.11.1' means to u .2.1.11.1'/t means to	I the calculation algorithr r interval; ht after the OID, indicati the value of the MIB noc use the difference betwee to use the value obtained	n in the Index Formula field, containing MIB OID, + - * / t ' (), where ng the value of the previous polling and being used for offset calculation de as the index value; n two pollings as the index value; I by dividing the difference between two pollings by the polling interval
Please test the custom	index before adding	j it.	
Name *			0
Name *	Predefined	None	•
Name * Measurement	Predefined     Custom	None	•
Name <b>*</b> Measurement Type <b>*</b>	Predefined     Custom	None	© • 0 0
Name * Measurement Type * Instance Label (Definition OID) *	Predefined     Custom	None	<ul> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>Select OID</li> </ul>
Name * Measurement Type * Instance Label (Definition OID) *	Predefined     Custom	None	⑦       ⑦       ⑦       ⑦       ⑦       ⑦       Select OID
Name * Measurement Type * Instance Label (Definition OID) *	Predefined     Custom	None	⑦       ⑦       ⑦       ⑦       ⑦       Select OID

?Help

- 4. Testをクリックして、インデックスを確認します。
- 5. Applyをクリックします。
- 6. 新しいカスタムインデックスを使用して、監視インスタンスを追加します。

# VM移行後にVM監視インスタンスにデータがない

## 症状

iMCからの仮想マシンの移行により、監視インデックスが変更され、VM-CPUモニター、VM-メモリーモニター、VM-ディスクI/Oモニター、およびVM-ネットワークモニターはデータを収集できません。

物理サーバーのIPアドレスは192.168.8.23で、仮想マシンのIPアドレスは192.168.7.159です。仮想マシンの移行後、VMネットワーク受信率インスタンスにデータは表示されません。

図67 データなし



### ソリューション

仮想マシンが移行されると、VM監視インスタンスとそのインデックスが変更されます。仮想マシンの新しい 監視インスタンスを追加する必要があります。

この問題を解決する手順は、次のとおりです。

- 1. Resourceタブをクリックします。
- 2. ナビゲーションツリーからPerformance Management > Monitoring Settingsを選択します。

#### 図68 監視インデックスの追加

🕞 Resource > Monitoring Settings 🛛 Last Statistical Time: 2016-04-20 05:30:00 🔤 Re-collect 🚾 Overall Monitoring Statistics ReportV2 🚓 Add to My Favorites ⑦ Help

Total number of i Total number of i management: 12	index instances monitored: 12 instances managed by performance	Total collecting frequency (times/hou Total collecting frequency of the inst. performance management (times/ho	r): 144 ance managed by ur): 144	Total number of collecting unit Total number of collecting unit managed by performance man	s: 12 s of the instance agement: 12
Add Monitor	Cancel Monitor Modify Index Re	efresh 🔻 Save			Query
			On	y Display Monitored Devices Swit	tch to Instance List
	Device Name	Device Model	Instances	Operation	Data
⊳	172.19.254.242(172.19.254.242)	ICMP	2	Add Cancel Modify Index	×
⊳	172.31.1.5(172.31.1.5)	ICMP	2	Add Cancel Modify Index	×
Þ	192.168.7.1(192.168.7.1)	H3C \$5820V2-52Q	4	Add Cancel Modify Index	×
Þ	192.168.8.23(192.168.8.23)	ICMP	2	Add Cancel Modify Index	×
Þ	192.168.8.25(192.168.8.25)	ICMP	2	Add Cancel Modify Index	<b>XX</b>
1-5 of 5. Page	1 of 1.			$\ll$ $<$ 1 $>$	» 15 💌

- 3. 物理サーバー192.168.8.23の横にあるAddをクリックします。
- 4. 図69に示すように、Select Indexページで索引を確認します。

#### 図69 インデックスの選択

- 🕨	IPSec VPN-IPSec Traffic
- 🕨	IPSec VPN-IPSec Global
- •	VM-CPU Monitor
- •	VM-Memory Monitor
- •	VM-Disk I/O Monitor
	<ul> <li>VM-Network Monitor</li> </ul>
	<sup>™</sup> ✔ Network Receive Rate (KBps)
	Network Transmit Rate (KBps)
	Network Receive/Transmit Rate (KBps)
- •	IVS-Video Statistics
- •	IVS-IVS Device Hard disk Usage
- •	IVS-VTDU Forward Statistics
. )	IVS-VTDU Request Statistics
. )	IVS-VTDU Record Statistics
- •	IVS-Front-end Device Statistics
. )	IVS-Monitor Points Statistics
- •	IVS-Video Message Statistics
1	

- 5. OKをクリックします。
- 6. Monitoring Settings-Add Monitorページで、Monitoring Instance and Refresh Instanceをオン にして、Select Instances領域でインスタンスを選択します。

#### 図70 インスタンスの選択

Mon	itoring Settings-Add Monitor		Refre	sh Instance
	Monitoring Device			
	Select Index			
	Add Delete All			
	Total Items: 1			
	Name	Index Group	Configure	Delete
	Name	Index Group	Configure	Delete
	Network Receive Rate	VM-Network Monitor	*	<u>ش</u>
	Select Instances			
	Select Delete All			
		Device Name		
	IP2.168.8.23(192.168.8.23)		Ē	
	A Network Receive Rate			
	z10069C.vmnic2			
	z10069C.vmnic3			
	z10069C.vmnic0			
	z10069C.vmnic1			
	z10069C			
	mkf4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159).4000		
	mkf4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159).4001		
	mkf4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159).vmnic2		
	mkt4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159).vmnic3		
	mkt4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159).vmnic0		
	mkt4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159).vmnic1		
	Mkf4525-B-12DC-CN-x64_SQL(7.159)(19	92.168.7.159)		
	mkf4525-D-12DC-CN-x64_SQL(7.174)(1	92.168.40.195).vmnic2		
	mkf4525-D-12DC-CN-x64_SQL(7.174)(1	92.168.40.195).vmnic3		
	mkf4525-D-12DC-CN-x64_SQL(7.174)(1	92.168.40.195).vmnic0		
	mkt4525-D-12DC-CN-x64_SQL(7.174)(1	92.168.40.195).vmnic1		
	mkf4525-D-12DC-CN-x64_SQL(7.174)(1	92.168.40.195).4000		
	mkt4525-D-12DC-CN-x64_SQL(7.174)(1)	92.168.40.195)		
	ОК	Cancel		

7. OKをクリックします。

新しいインスタンスがMonitoring Settings-Instanceリストに表示されます。

図71 追加された監視索引

Aonitoring Settings-Instance List	
Save as New View Save to Existed View	Result
Save as New View Save to Existed View Device Name In 192 168 8 23(192 168 8 23)	Result

- 8. Closeをクリックします。
- 9. インスタンスの監視データを表示します。